

平成 30 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価の結果に関する報告書

(平成 29 年度施策・実施事業分)

平成 30 年 12 月

宇陀市教育委員会

はじめに

宇陀市教育委員会は、教育行政の充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、平成29年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目毎に分類し、目標の達成状況及び進捗状況について宇陀市教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価を行い、本報告書をまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律〔抜粋〕

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

宇陀市教育委員会

教育長 福田 裕光

委員 岡本 憲明

委員 巽 礼子

委員 吉川 壽一

委員 峯畑 忠郎

1 施策・事業点検及び評価の実施概要

宇陀市教育委員会は、「宇陀市教育大綱」及び年度ごとの「学校教育の指導方針」、「生涯学習の振興指針」並びに「人権教育についての基本方針」等に基づき、社会環境や財政状況に弾力的に対応した施策・事業を遂行しています。

その具体的な取組に関して目標達成状況等を踏まえた点検・評価を行いました。

今回の点検・評価の対象は平成 29 年度に実施したうちの主な施策・事務事業です。

2 宇陀市教育行政点検評価支援員

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条第 2 項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会自らが点検・評価をした結果について学識経験者 2 人に点検評価支援員を委嘱し、教育面での効率性・有効性の観点から改善点などについてご意見をいただきました。

施策・事業を見直すうえで、点検評価支援員の市民の視点に考慮した指摘を総合的かつ客観的に捉え、また、真摯に受け止め、職員の意識改革につなげ新たな進展をします。

■支援員の氏名

西岡 保千代 氏（宇陀市在住）

北森 基之 氏（宇陀市在住）

■点検評価支援員と教育委員会事務局職員による会議開催

平成 30 年 9 月 5 日（水） 午前 9 時～午後 5 時

〔教育委員会活動・学校教育等の概略説明と質疑応答、点検評価支援員からの総括的な意見〕

3 教育委員会の主な運営・活動状況

総合教育会議において、宇陀市の目指すべき教育を「宇陀市教育大綱」としてまとめ、この大綱に基づく 4 つの基本目標とそれらを推進するための 5 つの基本方針に沿った課題に、平成 28 年度から 4 年を目途に取り組んでいます。

平成 29 年度も、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 1 条の 4 並びに第 14 条及び第 21 条に基づき、次に掲げる教育に関する事務を管理し、執行いたしました。

- ・教育委員会会議
- ・総合教育会議
- ・教育方針及び教育計画の策定
- ・教育に係る調査及び統計
- ・学校その他の教育機関の設置、管理及び廃止
- ・事務局及び教育機関の職員の人事
- ・児童生徒の就学
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導
- ・教科書その他の教材の取扱い
- ・事務局及び教育機関の職員の服務及び研修
- ・学校施設及び設備の整備
- ・教職員に対する指導助言
- ・学校保健
- ・学校給食
- ・生涯学習の振興に係る施設の企画及び調整
- ・社会教育の基本計画及び総合調整
- ・社会教育に関する施設の設置及び管理
- ・社会教育団体の指導育成
- ・家庭教育、青少年教育、成人教育及び公民館事業
- ・文化及び芸能の振興
- ・スポーツ・レクリエーションの指導奨励
- ・文化財の保護、活用及び啓発
- ・文化財の指定、調査、研究、記録及び資料の作成 等

◆総合教育会議の開催

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、3回開催されました。

- 平成29年度第1回宇陀市総合教育会議（平成29年7月21日）
 - ・幼稚園の適正配置について
- 平成29年度第2回宇陀市総合教育会議（平成29年12月21日）
 - ・学校教育の現状と課題への取組について
- 平成29年度第3回宇陀市総合教育会議（平成30年2月22日）
 - ・宇陀市教育大綱にかかる事業実施概況について
 - ・宇陀市生活行動・学習活動調査結果について
 - ・幼少連携・接続について

◆教育委員会会議の開催

教育委員会会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 14 条及び「宇陀市教育委員会会議規則」に基づき、平成 29 年度は定例会 12 回と臨時会 2 回、合計 14 回の会議を開催しました。

教育委員会会議は原則公開しています。平成 29 年度の傍聴者は 17 名でした。

◆教育委員会審議案件等の実績

教育委員会会議では「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「宇陀市教育長に対する事務委任規則」の規定に基づき、種々の案件について十分な議論、審議を行いました。

さらに、各担当課から所管する事務について詳細な報告や協議を行うことで、教育委員会と事務局が同一の施策の方針のもとで、一層事業が充実、推進されたと考えています。

<平成 29 年度の審議案件>

■4 月定例教育委員会（4 月 25 日）

審議案件なし、協議・報告事項のみ

■5 月定例教育委員会（5 月 24 日）

- ・宇陀市教育長に対する事務委任規則の一部改正について
- ・宇陀市教育委員会公印規程の一部を改正する規程について
- ・平成 29 年度教科用図書選定委員任命並びに平成 29 年度小学校道德教科用図書選定にかかる諮問について
- ・平成 29 年度教科書選定調査員任命について

■6 月定例教育委員会（6 月 28 日）

- ・宇陀市いじめ防止基本方針（案）について
- ・宇陀市松山地区伝統的建造物群保存地区保存審議委員の委嘱について

■7 月定例教育委員会（7 月 26 日）

- ・平成 29 年度宇陀市教育行政点検評価支援員の選任について

■8 月臨時教育委員会（8 月 22 日）

- ・平成 29 年度小学校道德教科用図書の採択について

■8 月定例教育委員会（8 月 29 日）

審議案件なし、協議・報告事項のみ

■9 月定例教育委員会（9 月 27 日）

審議案件なし、協議・報告事項のみ

■10 月定例教育委員会（10 月 27 日）

- ・宇陀市いじめ防止基本方針について

- 11月定例教育委員会（11月29日）
 - ・宇陀市いじめ防止基本方針について
 - ・史跡森野旧薬園保存整備委員会設置要綱の制定について
- 12月定例教育委員会（12月27日）
 - ・宇陀市松山地区まちなみギャラリー条例の一部改正について
 - ・宇陀市松山伝統的建造物群保存地区計画の一部改正について
 - ・史跡森野旧薬園保存整備委員の委嘱について
- 1月定例教育委員会（1月24日）
 - ・宇陀市立小・中学校教職員の人事評価に関する苦情処理要綱について
 - ・宇陀市地域公民館活動支援補助金要綱の廃止について
- 2月定例教育委員会（2月27日）
 - ・平成30～31年度社会教育委員の委嘱について
- 3月臨時教育委員会（3月15日）
 - ・平成30年度県教職員人事異動の内申について
- 3月定例教育委員会（3月27日）
 - ・宇陀市教育委員会事務局組織規則の一部改正について
 - ・宇陀市松山地区まちなみギャラリー管理規則を廃止する規則について
 - ・宇陀市教育委員会学校事務グループワーキング実施要綱の制定について
 - ・平成30～31年度スポーツ推進委員の委嘱について

◆教育委員会会議以外の活動

[学校訪問]

学校長等から、今年度の学校経営の重点項目、教育課程の特色、創意工夫の点などについて説明を受け、その後、「学校教育法施行規則」及び「宇陀市学校管理運営規則」に基づく次に示す各種表簿を点検しました。

<各種表簿>

学校日誌・出勤簿・旅行命令簿・教育計画書（教育課程）
指導要録・健康診断に関する表簿・薬品管理簿等

学校施設・設備の視察・点検を行い、児童生徒等の学習・授業の様子を参観しました。

その後、改善点について意見交換を行うとともに教育の課題を探り、学校長等に対し指導・助言を行いました。

また、入学式、卒業式、体育大会等学校行事への参加を通じて、児童生徒の活動状況を参観しました。

奈良県教育委員会が定める「学校教育の指導方針」ならびに「宇陀市学校教育の指導方針」に添った教育がなされているか、教育委員、教育長、指導主事及び事務局職員、さらに県教育委員会事務局教職員課の管理主事も加わり、次に示す観点で実態を調査しました。

＜実態把握の観点＞

県及び市の学校教育に関する方針に添った重点施策
学校の経営方針・教育課程（教育方針と重点指導）
特別支援教育・道徳・人権教育・生徒指導・研究主題
職員研修・児童生徒の安全確保と危機管理・評価の実施と公開
家庭や地域との連携等

平成 29 年度は、5 月から 6 月にかけて小学校 6 校、中学校 4 校、幼稚園 3 園、こども園 2 園、保育所 3 所を訪問しました。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ◇室生小学校
榛原東小学校 | 平成 29 年 5 月 26 日 |
| ◇室生中学校
榛原小学校
榛原西小学校 | 平成 29 年 5 月 29 日 |
| ◇大宇陀小学校
菟田野小学校
菟田野中学校 | 平成 29 年 5 月 30 日 |
| ◇菟田野保育所
榛原西幼稚園 | 平成 29 年 5 月 31 日 |
| ◇榛原北保育園
しらゆり保育園 | 平成 29 年 6 月 2 日 |
| ◇榛原東幼稚園
室生こども園 | 平成 29 年 6 月 6 日 |
| ◇榛原幼稚園
大宇陀こども園 | 平成 29 年 6 月 7 日 |

◇大宇陀中学校
榛原中学校

平成 29 年 6 月 9 日

[宇陀市学校アドバイザーチーム学校訪問]

学校は、教育活動を通して児童生徒の豊かな人間形成を図るため、質の高い教育を提供する責務があり、活力ある組織としての総合力を発揮することが求められています。そのため、学校経営、教育活動について絶えず見直し、学校改善（学校経営改善、授業改善）を図ることが重要な課題となっています。

そこで、宇陀市教育委員会として、単に学校改善を求めるだけでなく改善の方向性や具体的方策を示すため、学校アドバイザーチームを設置し、各学校を計画的に訪問しました。

平成 29 年度の訪問は市内小学校 3 校、中学校 1 校でした。

◇菟田野小学校 平成 29 年 10 月 17 日

◇室生小学校 平成 29 年 10 月 31 日

◇榛原東小学校 平成 29 年 11 月 7 日

◇菟田野中学校 平成 29 年 11 月 20 日

[教育委員・教育長研修等]

以下の研修等を通じて、自己研鑽に努めるとともに教育事情調査や教育相談等の日常活動に努めています。

◇奈良県都市教育長協議会 平成 29 年 4 月 18 日（奈良市）
平成 29 年 7 月 19 日（奈良市）
平成 29 年 10 月 25 日（奈良市）
平成 30 年 2 月 6 日（奈良市）

◇近畿都市教育長協議会定期総会 平成 29 年 4 月 27 日～28 日
（大阪府守口市）
近畿都市教育長協議会研究協議会 平成 29 年 10 月 26 日～27 日
（大阪府大阪市）

◇全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会
平成 29 年 5 月 18 日～19 日
（奈良県奈良市）

◇奈良県市町村教育委員会連合会会議

平成 29 年 4 月 25 日（奈良市）

◇近畿市町村教育委員会研修大会

平成 29 年 10 月 24 日

（和歌山県紀の川市）

◇奈良県市町村教育委員会研修大会

平成 29 年 11 月 17 日（生駒市）

4 各施策・事業の取組状況と支援員の意見

各施策・事業点検評価シートは、「宇陀市教育大綱」に沿って、項目ごとに主な施策・事業を点検し、評価した結果です。

シート中の『達成度』『必要性』『有効性』とは、教育委員会が次の基準により判断したものです。

- | | | |
|---|------|----------------------------|
| A | 高い | （概ね期待通りの成果が上がり、目標を達成できた。） |
| B | やや高い | （ほぼ目標を達成したが、改善の余地がある。） |
| C | やや低い | （目標をあまり達成できなかったため、改善を要する。） |
| D | 低い | （目標を達成できなかった。） |

また、『点検評価支援員による総合評価』『今後の方針』については、それぞれの欄外※印にある 5 段階評価で評価しています。

施策・事業の点検・評価 一覧

宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業		自己評価			総合評価
		達成度	必要性	有効性	
1 確かな学力・規範意識・体力の向上					
1	小中学生基礎学力向上事業	B	A	A	1
2	外国語活動指導助手設置事業	A	A	A	1
3	教職員の研修事業	A	A	A	1
4	成人式事業	A	A	A	2
2 夢を育む教育環境づくり					
5	学校給食賄材料購入事業	A	A	A	2
6	安全・安心メール配信システム運営事業	A	A	A	2
7	教育施設の耐震化（小学校）	B	A	A	2
8	教育施設の大規模改修（中学校）	A	A	A	5
9	宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業	B	A	A	2
10	総合体育館・総合運動場運営事業	B	B	B	2
11	室内温水プール及びテニスコート管理運営事業	B	B	B	2
12	図書館機能充実事業	A	B	B	1
13	図書返却ポスト事業	B	A	B	1
14	寄贈資料の管理運営事業	A	A	B	2
3 地域全体で子育てを					
15	ぬくもり修学奨励資金支給事業	A	B	B	2
16	教育相談事業	A	A	A	1
17	（1）適応指導教室「はばたき」	A	A	A	1
18	（2）通級指導教室「ほほえみ」	A	A	A	1
19	青少年育成支援事業	B	A	A	1
20	子ども活動支援事業	B	A	A	2
21	子どもフェスタ事業	A	A	A	2
4 人権文化の創造					
22	公民館管理運営事業	A	A	A	2
23	各種講座・教室事業	A	A	A	1
24	地域公民館活動支援事業	A	A	A	5
25	市美術展事業	A	A	A	2
5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり					
26	文化財保存修理等補助事業	A	A	A	2
27	薬の館管理運営事業	A	A	A	2
28	重要伝統的建造物群保存地区保存事業	A	A	A	2
29	埋蔵文化財発掘調査事業	A	A	A	2
30	街なみ環境整備事業	A	A	A	2
31	史跡宇陀松山城跡保存整備事業	A	A	A	1
32	史跡森野旧薬園保護事業	A	A	A	2
33	国県指定史跡災害復旧事業	A	A	A	2
34	国指定天然記念物等保護再生事業	A	A	A	2
35	小学校水泳教室事業	B	A	A	1
36	水泳教室事業	B	A	A	2
37	宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業	A	A	A	2
38	大人のための運動教室事業	B	A	A	1
39	宇陀シティマラソン事業	A	A	A	2
40	市民スポーツ大会事業	A	A	A	2
41	近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部	A	A	A	2
42	ラジオ体操事業	A	A	A	4

自己評価 「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 小中学生基礎学力向上事業				所管課	教育総務課
事業の概要	子どもの学力に関わる諸課題に関する調査・分析を行うと同時に、課題に対応した諸事業(学びの創造UDAプラン)を行う。また、それら諸課題への取組について研究校による先進的取組を支援し、その成果の普及を図る。					
目標・実績	市内小・中学校の児童生徒の基礎学力の向上を図る。 ・宇陀市学力学習状況調査の実施及び結果分析及び宇陀市学習状況調査の実施及び結果分析 ・市、県、国の学力学習状況調査の結果からまとめた「学びの創造UDAプラン(授業のUD化、AL化、家庭学習の充実)」の推進及び交流 ・宇陀市研究校の指定、市研究論文集の作成					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	学力調査により同一集団の学力の伸びを継続的に把握している小学校5年生から中学校3年生は、小学校5年生以外は上昇傾向を示している(小学校5年生は横ばい)。今後は、全学年の学力向上とともに、家庭学習を含め主体的に学びに向かう意欲の向上を目指して取り組む必要がある。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	授業に対する熱意や態度についてはポイントが上昇傾向であるが、家庭学習については全国や県平均よりポイントが低い。		子どもたちの自己肯定感を育み、一人一人が自信を持ち、自尊意識を培い、生涯にわたって幸せに生きていく力を身につけるために重要。		子どもたちが夢や意欲を持って学習に取り組み、規範意識や基礎学力向上につなげるために有効と考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	<p>・乳幼児の家庭での過ごし方、就学前教育のあり方等が就学時の子どもたち一人一人の成長に大きく関わっていることは周知の事実である。学力調査の分析等で明らかになった家庭学習における課題点等について、さらに保護者と連携して子どもの意欲向上を図るよう働きかけていただきたい。「家庭学習の手引き」のさらなる活用、「学びの創造UDAプラン」事業の学校現場への浸透等が子どもたちの自信につながり、生きる力となると考える。</p> <p>・生活習慣と学力はつながりが深く、今後は、基礎学力向上とともに、家庭学習を含め主体的に学びに向かう意欲の向上と自己肯定感醸成を目指して、学校や家庭とつながり、取り組む必要がある。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>学びの創造UDAプランの成果の定着をはかるため、本年度作成した「UDAスタンダード」の浸透をはかり、全ての教師があたり前のことを、徹底して実践するよう、あらゆる機会を通じて取組をすすめる。また、幼小中の連携性の向上を図りつつ、新しく3カ年程度の学力向上プランを作成し計画的にすすめる。その中で家庭学習・家庭での生活習慣などを校種を越えてさらに一体的に推進する。</p>
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 外国語活動指導助手設置事業				所管課	教育総務課
事業の概要	ALT(外国語指導助手)を配置し、市内6小学校の外国語活動授業で、クラス担任と連携し、「Hi, friends!」(副読本)等を活用したチームティーチングを行う。小学5、6年生のクラスに対し年間30回、小学3、4年生のクラスに対して年間15回、小学1、2年生のクラスに対し年間10回ALTを派遣した。(外国語活動及び国際理解に関する教育の補助・外国語教材作成の補助) また、幼稚園、保育所、子育て支援センターに年間各10回訪問し、英語指導を行う。					
目標・実績	外国語活動において、音声を中心に外国語に慣れ親しむ活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としている。 幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことによって英語に対する関心や興味が高まり、英語力の向上につなげていきたい。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	子どもたちはネイティブな英語に触れることができる授業を体験している。また、ALTの国の生活や行事などを聞くことができ、日本との違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くことができる。今後もALTのチームティーチングの仕方を工夫し、より効果的な外国語活動の指導につなげていきたい。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 幼児期からネイティブな英語に慣れ親しむことにより、児童の英語に対する関心・興味が高まり学習への準備効果が期待できる。		評価理由 次期学習指導要領の改訂で小学5～6年生で英語が教科化される見通し。外国語指導の充実が重要となっている。		評価理由 英語に対する関心を深め、国際感覚を磨くことにつながり、英語学習への環境づくりが期待される。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の力量、保護者の意識、児童の興味関心の程度等いろいろな課題がある中で、学習指導要領の改訂で教科化される外国語活動にALTは不可欠である。ALTの活躍に期待するための優秀な人材確保だけでなく、その他の教育環境の整備も図られることを期待する。 ・宇陀市の外国語活動交流会も続いており、新学習指導要領の実施も進められようとする中、今後の教育の動向や課題に沿って、継続し充実させることが大切である。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>平成32年の学習指導要領の改訂により、小学校において外国語教育がより重要になってくることから、引き続きALTを配置し、児童がネイティブな英語に親しみながら、異文化を理解し、コミュニケーション能力の向上が図れる環境を構築する。</p> <p>また、外国語教育にあたる教員のスキルの向上、ALTと教員の連携を図り、「英語及び外国語活動交流会」や「English Village」等の活動も継続して実施していく。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・学ぶ意欲の向上、教職員の資質向上、家庭学習の習慣化、主体性の醸成 — 教職員の研修事業		所管課	教育総務課		
事業の概要	子どもの学力に関わる諸課題及び特別支援教育、その他今日的な教育課題に関わる職員研修を実施することにより、教職員の資質及び指導力向上を図る。					
目標・実績	宇陀市の教育に関わる独自課題、今日的課題の職員研修を行い、教職員の資質及び指導力向上を図る。 ・宇陀市教育センター研修(17回 うち悉皆研修1回) ・宇陀市特別支援教育コーディネーター研修(3回) ・宇陀市初任者研修(2回)					
教育自己評価委員会の	成果と課題 実施した研修は参加者の9割が「参考になった」と答えていることから、一定の成果があったものとして考えている。今後は、現場の声を把握し、よりニーズの高い研修を実施すること、また複数回あるいは複数年で重点的に実施する研修を行い、教職員の資質と指導力の向上を図りたい。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	アンケートの結果、参加者の9割の方から参考になったとの回答があった。	評価理由	現場の教職員の若返りが進む中、資質及び指導力の向上のために、ニーズに応じた研修を実施する必要性は高い。	評価理由	宇陀市内の学校の状況に応じた研修を計画し、フォローアップも行っているため教職員の資質や指導力向上に有効である。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な見から	・教える者は、常に学びを怠ってはいけない。学習指導要領の改訂に伴い、内容把握のための研修を実施し、教職員が改訂に伴った指導に対応できるよう、研修の機会を設けられたい。 危機管理教育を進め、自助ができて共助ができる児童生徒の育成につながる研修の徹底を図るとともに、各校における安全教育のマニュアルの再考が図られることを期する。通学途上の突然の災害や、スクールバスが運行不能になった際の、帰宅難民が校内に取り残されるような状況や、徒歩帰宅が可能かどうかの訓練等も必要となるような状況を想定されたい。 ・教育を進めるうえで、教員は最大の教育条件とも言われている。毎年、10名以上の新任教員が継続的に採用される中、教職員の資質及び指導力向上を図るためにもニーズに応じた研修を実施する必要があると考える。	点検評価支援員による総合評価 【 1 】
----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 児童生徒の問題行動への対応、あるいは、発達に関わる課題への対応等教職員の専門性を高める必要性はますます高まっている。市として一貫した方向性を持って、管理職を含めて研修を計画していく。また、若手教職員の割合が高まる中、学校を訪問しての指導力向上を目指した実践的な研修も積極的にすすめていく。幼小接続、小中連携等連携性の向上を目指して協議会など学校間で情報交換できる場を検討したい。また、各学校の危機管理マニュアル等と連携しながら防災教育に関わる研修を検討したい。	事業の総合評価 【 1 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 ・道徳・規範意識の向上、生活習慣の確立、「夢・志」を育む教育の推進 ー 成人式事業	所管課	生涯学習課			
事業の概要	成人式の日には新成人が一堂に会し「成人式」を開催。					
目標・実績	1月8日(祝)に文化会館において「成人式」を開催した。式典及び記念事業を実施した。対象者293人中224人の参加を得た。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	成人の中から実行委員を募集し、15人の実行委員が中心となり、式典及び記念行事の内容について企画、運営がなされた。参加率は76.45%であり、今後も新成人に対して、道徳・規範意識の向上を持てる宇陀市の成人になっていただくことを願って、成人式を行いたいと考える。 ※成人が18歳となる場合、成人式のあり方について再検討が必要					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由	評価理由
	新成人代表となる実行委員会が中心となり、式典・記念行事を進捗。内容にこだわって開催していることに意義があると考え。	宇陀市においては、成人式として、式典・記念行事を開催しているが、多くの市町村において実施されている事業でもある。日本の文化の一つとして大切な事業であると考え。		道徳・規範意識の大切さを新成人に訴えることができるような事業にしたいと考える。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	・新成人の代表となる実行委員会が中心となり、内容を検討し新成人の意向を汲み取った内容で例年実施されているが、成人するという意味を再考察し、内容を吟味する必要がある。まして18歳成人となると、自覚を促す大切な機会として、成人式を検討していただきたい。 ・成人式の式典と記念行事で構成されている。成人の中から15人の実行委員を募集し、実行委員が中心となり、行事の内容について10回程度の会議を経て、企画や運営がなされた。参加率は約76%であり、今後も新成人に対して、夢や希望を育み、規範意識の向上を図る成人式を継続して実施する必要あると考える。	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 式典及び記念行事を通して、成人としての自覚、社会人の出発点としての規範意識を高めていく大切な機会ととらえ、新成人で結成する実行委員とともに、意義ある成人式が挙行できるよう、検討していきたい。	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 － 学校給食賄材料購入事業	所管課	学校給食センター			
事業の概要	子どもたちに「安全・安心でおいしい給食」を提供するため、国産物資、国内加工、無添加食材を基本として購入する。特に地場産物を中心とした旬の食材を積極的に購入する。 まち・ひと・しごと創生総合戦略に、「学校給食地産地消促進事業」として数値目標を掲げ、市単独予算措置により地産地消を推進する。 また、県給食会との連携により、積極的な情報収集を行い食材の安全確認に努める。					
目標・実績	使用食材の安全衛生管理を徹底する。安全管理の方法として次の内容を実施している。①食材の産地表示の義務化 ②加工食品は、原材料及び産地確認 ③学校給食衛生管理基準に基づく食品検査を複数回実施 また、給食でのアレルギー対応として、献立の成分内容(アレルゲン)を明確にして、アレルギー対応(除去食)対象の保護者及び希望者に情報を提供する。 地場産物(市内・県内産)の積極的な購入により、地産地消を推進する。 【まち・ひと・しごと創生総合戦略「学校給食地産地消促進事業」の数値目標】 学校給食地産地消率(市内産野菜・きのこ類の重量比率) H27(基準値):10.55% ⇒ H31(目標値):20.00% H29(実績値):32.38% 学校給食費 食材購入費 :106,400,742円 地方創生総合事業費 食材購入費 :1,499,681円					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 地場産物(市内、県内産)を使用した献立による「安全・安心でおいしい給食」を提供することを心がけ、また、市内産の野菜等を積極的に購入し、地産地消の推進を図っている。 献立などに関する保護者の声を聞く場として、給食試食会を4校3園で12回実施し、281名の参加をいただいた。保護者の意見等は献立などに活かしている。また、食育授業を5校で12回開催、2校の施設見学及び職場体験の受け入れなどにより、給食に対する関心や理解を深め、食育の推進に努めている。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由		評価理由		
	「安全・安心でおいしい給食」を提供することができた。 地産地消率については、目標値を達成したが、さらなる推進を図っていく。	衛生管理を徹底するため、産地表示の義務化や関連書類の提出を求めることにより、使用食材の安全を確認できる。		試食会などの情報を、献立に活かしている。献立の成分内容などの情報の共有により、効果的なアレルギー対応ができる。 食育により、食に対する関心や理解が深められる。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本社会で「食は文化」と見なされるようになり、大切にされるべきものになってきている。しかし、あまりにも簡単にお腹を満たすことができる日常で、逆に食がおそろそかになっていることに危惧を感じる。いつでもどこのように食事をするか、教室で友だちと楽しくおいしい給食をいただいた記憶はきっと子どもたちのこれからの人生を豊かにするものと信じる。いろいろご苦労があるが、宇陀市の子どもたちのため、今後とも安全・安心でおいしい給食の提供を続けていただきたい。 目標値を達成していることやアレルギー対応の組織づくり、給食試食会や食育授業の実施など、食育の推進に努めており、さらなる工夫改善と安全管理の継続を望みたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 使用食材及び施設等の安全衛生管理を徹底し、地場産物(市内、県内産)を使用した献立による「安全・安心でおいしい給食」の提供に努める。 アレルギー対応については、正確な情報提供をするとともに、確実な除去食の提供に努める。 市単独補助金を有効に活用し、地産地消の推進を図る。 保護者の声を聞く場としての給食試食会や、食に対する関心や理解を深めるための、食育授業・施設見学・職場体験などを通して、食育の推進に努める。 	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 － 教育施設の耐震化(小学校)				所管課	教育総務課
事業の概要	榛原東小学校渡廊下耐震化工事設計業務					
目標・実績	学校施設は、児童が1日の大半を過ごす活動の場であり安全性の確保は重要課題である。また非常災害時には地域住民の応急的な避難場所としての役割を果たすことから、施設の耐震化を進めるとともに経年による損耗、機能低下の復旧措置を図る。					
教育委員会 の 自己 評価	成果と課題					
	平成24年度に作成した宇陀市学校施設等耐震化計画に基づき、国が示す平成27年度予算(市予算では平成28年度)による耐震化完了に向け、計画的に耐震化を進め学校施設の耐震化を完了した。平成29年度以降は、国土交通省の基準を満たすため、榛原東小学校渡廊下の耐震化を実施する。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由 文部科学省の基準ではなく国土交通省の基準となる榛原東小学校の渡廊下の耐震化は、平成29年度で設計、平成30年度で工事を実施する。		評価理由 学校施設は児童生徒が1日の大半を過ごす施設であり、また、地域の避難所としての機能を有しているため、耐震基準を満たし経年による施設の老朽に対する機能復旧は必要。		評価理由 学校施設の改修により教育環境の改善及び避難所としての安全な施設にすることで安全・安心なまちづくりができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> ・国の基準の違いとはいえ、児童が一日の大半を過ごす同一敷地内の建物の安全が確保されることは評価に値する。今後とも、敷地内だけでなく通学途上の安全点検を怠らず、児童の安全確保に努められたい。 ・学校施設は、児童の教育活動の場であり、非常災害時には地域住民の避難場所として、耐震化は進めなければならない。平成29年度以降は、国土交通省の基準を満たすため、榛原東小学校渡廊下の耐震化を実施するとともに、ブロック塀の点検など安全・安心なまちづくりにつなぐ事業を継続することが大切である。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>学校施設の耐震化工事設計業務は平成29年度で、耐震化工事は平成30年で完了した。 今後も計画的に施設の補修等を行い、児童生徒の安全を確保する。また、学校施設だけでなく、通学路交通安全プログラムを活用し、通学路の安全についても向上を図る。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・安全・安心な教育環境の整備 — 教育施設の大規模改修(中学校)				所管課	教育総務課
事業の概要	榛原中学校校舎大規模改修工事 榛原中学校校舎大規模改修工事監理業務 菟田野中学校大規模改修工事 菟田野中学校大規模改修工事監理業務					
目標・実績	学校施設の定期的な点検や修繕を行うことにより、経年による損耗、機能低下の復旧措置を図り、良好な教育環境を維持提供する。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	菟田野中学校、榛原中学校ともに平成28年度に実施した設計変更に基づき、大規模改修工事を実施し、完了した。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 平成29年度事業完了。		評価理由 菟田野中学校は、特に屋内運動場の雨漏りがひどく、緊急対応を必要としていた。また国の補正予算による国庫補助金の採択を受け、財源的にも有利な条件が整っていた。		評価理由 学校施設の改修により教育環境の改善ができた。また雨漏り等による劣化を防ぐことができた。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<p>・予算計上から執行まで、確実に計画実施され生徒の教育環境の整備が無事終了した。今後とも市内各校の現状調査を怠らず、老朽化による劣化等に早期対処を図られ、良好な教育環境の保持に努められたい。</p> <p>・学校施設は、生徒の学習活動や部活動など一日の大半を過ごす大切な場である。また、緊急災害時には地域住民の避難場所として使用されることも考えられる。菟田野中学校、榛原中学校ともに平成28年度に実施した設計変更に基づき、大規模改修工事を実施し、完了することができた。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 5 】</p>					
--------------	---	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>菟田野中学校及び榛原中学校の大規模改修は平成29年度で完了した。しかし、学校施設の老朽化が進むなか、施設の補修、改修等の老朽化対策は継続して取り組む必要がある。今後、国の方針としては、施設の改築(新築)から既存施設の長寿命化へシフトしていくため、早期に長寿命化計画を策定し、計画的・効率的な学校施設の維持管理を図っていく。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 5 】</p>					
-------	--	--	--	--	--	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・地域にひらかれた学校づくりの推進、時代に対応する資質、能力の形成 － 宇陀市図書館を使った調べる学習コンクール実施事業			所管課	中央図書館
事業の概要	市内の小学校・中学校の児童生徒が、学校・公立図書館の資料や自らが観察、実験するなどして得る様々な情報を活用して「調べる学習」を行うことを通じ、「自ら考え、課題を解決する力」を養い、それに伴い図書館の利用が一層促進されることを目指す。				
目標・実績	・「調べる学習」により、主体的に学ぼうとする意欲、自分なりのテーマを追求し「情報を活用する力」を身につける。 ・知的好奇心、語彙力、読解力、思考力の向上を目指す。				
教育委員会 自己評価 の	成果と課題				
	・小学校 4校 14作品、中学校 2校 81作品の応募があった。 ・上位2作品を全国コンクールに出展の結果、2作品が佳作に入賞した。 ・市内全小学校、中学校が参加しているわけではない。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由 初年度であるにもかかわらず、2作品が全国大会佳作入賞を果たした。 今後は、市内全小学校・中学校の参加を目指す。		評価理由 子どもたちに図書館利用を促すきっかけ作りとなる。		評価理由 テーマも自由決定であり、子どもたちの主体的な学びの機会を提供できる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	・図書館で書籍を活用して調べ学習を行う調べる学習コンクールに参加をされたことは素晴らしいと思う。子どもたちが主体的に学ぼうとする意欲を持ち、そのために図書館が利用しやすい施設として、ますます工夫されることを望む。 ・各校に夏休みの課題として参加を働きかけ、市内教科主任者会などでも説明会を持つなど積極的に進めている。81点の応募があり、全国大会でも2作品が佳作入賞を果たしている。さらにこの事業をどう広げていくかが課題となる。				
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 公立図書館と学校図書室との連絡会議や各教科主任者会等で、積極的に調べる学習について説明し、市内の全ての学校が参加してくれるよう、働きかけを継続する。				
	事業の総合評価 【 2 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 総合体育館・総合運動場運営事業		所管課	総合体育館
事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、体育館・運動場の効率的な管理運営を行い、安全で快適に利用いただけるように努める。			
目標・実績	体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めるとともに、利用促進を図る。			
		平成28年度	平成29年度	増減率
	体育館利用者数	48,380 人	47,631 人	98.5%
	グラウンド利用者数	8,592 人	7,601 人	88.5%
	合計	56,972 人	55,232 人	96.9%
教育自己評価委員会の	成果と課題 ・体育施設の整備充実と健全な管理運営に努めた。			
	達成度	B	必要性	B
	有効性	B	評価理由	評価理由
	平成28年度と比較すると利用者は若干の減となっているが、これは総合運動場の利用者が減となったためである。	大きな大会や集会を行う施設として利用度が高い。	スポーツ振興と体力づくりの施設として、また、イベントや集会等の多目的利用施設として市民からの評価が高い。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・市民が一堂に会する施設としては、市内で一番収容規模が大きく、また位置的にも比較的利用しやすいといえる。平成26年に大規模改修を行い今のところ問題なく利用されているということであるが、非常時の利用や大きな大会の誘致のためにも、今後さらに細かいメンテナンスに努め、施設の維持管理を徹底されたい。 ・市民のスポーツとレクリエーション振興と健康増進を目的とし、総合体育館・総合運動場の充実・活用を図るため、平成26年に体育館の大規模改修工事を行うなど管理運営を続けている。利用者数では、グラウンド利用者数が前年度に比べ少し減っているが、天候や大会キャンセルによるもので、利用者数は7,000人以上と利用度は高い。施設の老朽化など課題も多くあるが、継続が望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 総合体育館においては、平成26年度に大規模改修を実施したが、施設の全てをカバーしたわけではなく、また総合運動場においてはグラウンドコンディションが悪くなってきている。このような状況を踏まえて、今後も年次的な計画の基に改修等を実施し、施設の長寿命化を図り、健康づくりから競技スポーツまで、利用者の幅広いニーズに対応できる施設づくりに努めていく。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 － 室内温水プール及びテニスコート管理運営事業	所管課	総合体育館
-----	---	-----	-------

事業の概要	市民のスポーツとレクリエーションの振興を図るとともに健康増進を推進し、室内温水プール及びテニスコートの効率的な管理運営を行い、安全で快適に利用いただけるように努める。
-------	---

目標・実績	水泳やテニスを通してスポーツ振興と健康増進を図り、効率的な管理運営と利用者の増加を進める。
-------	---

	平成28年度	平成29年度	増減率
プール利用者数	42,420 人	40,217 人	94.8%
テニス利用者数	4,835 人	4,903 人	101.4%
合計	47,255 人	45,120 人	95.5%

教育自己 委員評価 の	成果と課題					
	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設設備等の一部を改修した。 ・施設の長寿命化のために、大規模な改修が必要である。 ・小中学校の水泳授業にも使用されている。 					
	達成度	B	必要性	B	有効性	B

評価理由	評価理由	評価理由
<ul style="list-style-type: none"> ・設備の一部を改修したことにより、安全・安心な利用が期待できる。 ・テニスコートの利用者は増加したが、プールの利用者は若干減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳を通しての健康や体力づくりに利用度が高い。 ・小・中学校の体育の水泳授業にも使用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児・小学生等の水泳技能向上や市民の健康と体力づくりに貢献している。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・今後増えると予想される小・中学校の体育の授業の利用と、高齢化社会における体への負担の少ない水中運動の利用者の増加を鑑み、よりよい併用使用のあり方を考える必要がある。またそのためにも、施設の改修を計画的に実施されたい。テニスコートの使用にあたっては、利用者数の増加を図るとともに安全・安心な利用環境を提供していただきたい。 ・クーラーや熱管理施設の入れ替えなど、改修を重ねている。プールやテニスコートの利用者合計は45,000人以上で利用者も多い。小・中学校の水泳授業にも使用しているが満杯状態にあり、一般利用者への影響が懸念される。また、施設の老朽化と大規模改修が課題となっている。
点検評価支援員による総合評価 【 2 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>利用者が安心・安全に利用できるようこれまでに部分的な改修等は実施してきたが、築25年以上を経過した現在、施設全体の老朽化も進んでいる。今後は将来的な指定管理者制度の導入も視野に入れた大規模改修を年次的・計画的に実施し、子どもから高齢者まで全ての人が利用しやすい施設づくりに努める。</p>
事業の総合評価 【 2 】	

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 — 図書館機能充実事業	所管課	中央図書館
-----	--	-----	-------

事業の概要	図書館システムを活用したウェブサービスの促進を目指し、図書館資料の活用を促す。また、平成26年度末に宇陀市子ども読書活動推進計画が策定され、宇陀市の現状と課題を保育現場や学校現場の先生方と共有し、今後に生かすことで、より読書活動を活性化させる。
-------	--

目標・実績	市民の皆さんに“いつでも、どこでも、誰でも”読書を楽しむことができる生涯学習環境をつくることを目指し、そのためにアクセスポイントでの本の貸出・返却やインターネット予約などの図書館システムの利用を促進させて、利用率の向上を図る。またHPやツイッターなどで情報提供を定期的に行い、図書館運営への参加を促す。 また子ども読書活動推進計画の策定を受けて、幼稚園・保育所及び小・中学校連絡会議を年2回開催し、団体貸出やインターネット予約の利用促進を目指す。 【平成29年度実績】 ・蔵書冊数 144,039冊 利用人数 30,007人 貸出冊数 105,077冊 ・団体貸出 幼稚園・保育所・子育て支援センター団体貸出数…4,759冊 小・中学校団体貸出数…市内 570冊 ・ 市外381冊(東吉野小・御杖小・曾爾小等) ・ブックリスト『この本読んで』…作成・配布 ・特別絵本講座 よみきかせライブ 絵本作家 岡田よしたか 参加者 子ども 36名 ・ 大人 39名
-------	---

教育委員会の自己評価	成果と課題
	貸出冊数・利用人数は毎年多少ではあるが増加の傾向にあったが、平成29年度は榛原総合センターの大規模改修のため、中央図書館も移設する必要があり、引越作業等で27日間休館のうえ、奈良カエデの郷ひららにて中央図書館としてのサービスを提供した。地理的要因(冬期であり雪道、交通手段等)が大きいのか、ひらら移設中の利用は本来利用の約半数に留まったため、貸出冊数や利用人数の減少となった。 菟田野地域に移設したことで、図書館利用の経験のない方等新規の利用者を掘り起こせたことは収穫となった。今後、インターネット予約等を活用し、継続して利用いただけるよう努める。 子どもの読書活動推進計画の策定により、幼稚園・保育所及び小・中学校連絡会議も定着し、団体貸出の利用促進や学校図書館システムの活用方法等、図書館との連携を深めることにより、子どもたちへのアプローチの幅が広がるよう事業を進めていきたい。 また榛原総合センターの大規模改修に伴う中央図書館の移設により例年に比べ回数は少ないものの「大人のおはなし会」1回(参加者12人)や「落語会」2回(参加者86人)を開催し、生涯学習の一助としての図書館の役割は果たせた。

達成度	A	必要性	B	有効性	B
評価理由	図書館と幼稚園・保育所等及び小・中学校等との連携が軌道に乗ってきたと感じる。さらに連携を深めるよう事業展開を考える。	評価理由 宇陀市の高齢者率も高まる状況であり、今後子どもだけでなく大人を対象としたイベント等の企画や、図書館サービスの提供の仕方について検討する必要がある。 生涯学習情報発信の拠点として、すべての市民に親しみやすい身近な図書館を目指す。		評価理由 図書館に近い利用者としていない利用者ではどうしても利用率に差ができてしまう。インターネット貸出等の利用率をあげることで対応しながら、新たな図書館サービスの提供についても考えたい。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館がひららに移動していた間の利用者の減少は見られたが、菟田野の地域では図書館が身近になり、その後利用を継続された利用者もいると聞いた。何らかの形で、図書館が身近になるよう考えていただきたい。経費等の関係で有効性が低いと思われるが、移動図書館も一考の余地はあると考える。 乳幼児へのモバイル端末の悪影響を危惧する中、魅力ある絵本の活用を推し進めていただきたい。 上記のとおり、「ひらら」へ移設した影響で利用者は半減したが、新規利用者の開拓や幼・保・小・中学校の連絡会の定着、団体貸し出しの利用促進などアプローチの幅が広がっている。今後も継続的な工夫改善を進めたい。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
-----------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>現在図書館が提供している様々なサービスを継続提供すること等により、市民の生涯学習情報発信の拠点として、全ての市民に親しみやすい身近な図書館を目指す。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 1 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 図書返却ポスト事業	所管課	中央図書館
-----	---	-----	-------

事業の概要	インターネット(携帯電話)予約を受け、それぞれの受取場所への配送サービス及び各地域に設置した返却ポスト、大宇陀図書館や各幼稚園保育所等の団体貸出の回送を行う。
-------	---

目標・実績	返却ポストは周知によりかなり浸透してきているが、貸出ポイントの利用の増加はまだまだ少ないので、さらなる利用者の増加を目指す。 平成29年度返却ポスト利用状況 返却冊数 22,612 冊
-------	--

教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	返却ポストの周知はされているが、インターネット予約等の活用には利用者の増加があまり認められない。利用方法を再検討して貸出場所の利用拡大を図る必要がある。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	B
	評価理由		評価理由		評価理由	
	中央図書館の移転に伴い、利用実績の数値は減少しているが、返却ポストの利用という意味では、周知に役立ったと思われる。		利用者の利便性向上には、ポストや貸出場所の設置は必要である。		直接来館せずとも図書館サービスを利用できる手段は、図書館利用者数向上に有効な手段と考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が直接返却にこなくてもいい返却ポストの設置は有効である。貸し出し増加のための工夫も進められたい。中央図書館と大宇陀図書館の閉館日の曜日をずらしたり、平成30年度試験実施の夜間開館がどのような結果を示すのかしっかり検証していただきたい。夜間開館の人員的な負担に関しては、夜間開館日の曜日を決めて、その日は午後から開館するような工夫はできないであろうか。 ・ここでも、「ひらら」への移設の影響により減少傾向が見られた。しかし、駅の返却ポストの利用は増加傾向にあり、団体貸し出しも増えている。利用方法を再度検討し、改善を繰り返し、試行を望みたい。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
------------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年に試行実施した開館時間延長の今後については、期間中の利用状況を踏まえたうえで、予算・人員配置等総合的に考察する必要があると考える。 ・返却ポスト利用については、市民の皆さんに認知されてきているが、インターネット利用の普及はさらなる広報が必要と思われる。 ・広報においては、平成30年10月号「広報うだ」での図書館特集に見られるような他の部署との連携を今後においても模索していきたいと考える。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 1 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 2 夢を育む教育環境づくり ・社会教育施設の活用と充実 ー 寄贈資料の管理運営事業			所管課	中央図書館
事業の概要	宇陀市に寄贈された約1万冊の貴重資料を宇陀市立図書館の蔵書として登録し、館内閲覧のみの貴重資料ではあるが、奈良カエデの郷ひらら内に玩槭(がんしゅく)文庫として開室。市立図書館の資料として広く周知する。				
目標・実績	登録した寄贈資料約1万冊を、奈良カエデの郷ひらら内に玩槭文庫として開室し、寄贈資料を館内閲覧していただく施設の整備及び管理運営を奈良カエデの郷ひららに委託した。その結果、来館者に対し市立図書館の資料として広く周知することができた。				
教育委員会 自己評価 の	成果と課題				
	平成29年度は総合センターの大規模改修に伴い中央図書館の移転が必要となり、平成29年9月20日～平成30年3月12日の間、奈良カエデの郷ひららにて中央図書館としてのサービスを提供することになったため、ひららへの来館者が増加したことにより玩槭文庫についても広く周知できた				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	玩槭文庫の貴重資料としての魅力からか、県内他館からの問合せを受けることもある。		寄贈された書籍は適切に管理運用しなければならない。		市外だけでなく市内の利用者に対しても、資料が最も有効に活用できる方策を考える必要がある。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見 から	・貴重な資料とはいえ、一万冊は、宇陀市の図書館の総蔵書数の7%とという膨大な数に上る。これらの資料の維持管理は大変なことであり、奈良カエデの郷ひらら内に玩槭(がんしゅく)文庫として開室できていることはすばらしいことではあるが、有効利用のあり方について、さらに検討する必要がある。 ・「ひらら」への来館者が増加したことにより、広く周知できた点や希望者には「ひらら」から図書館に搬出して閲覧できるようにするなど工夫に努めている。今後も、資料が有効に活用できる方策を考え、改善を推進していただきたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉
今後の方針	「ひらら」を訪れる方は市外の方が多いため、玩槭文庫についても閲覧される機会は市外の方が多いため現状かと思われる。個人貸出は実施していないものの中央図書館や大宇陀図書館での閲覧には対応しており、さらに中央図書館ではカエデが色づく季節に合わせて「ひらら」の特集を実施するなどして、図書館利用者に「ひらら」及び玩槭文庫の周知に努めている。今後も広報活動の継続が必要と考える。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・家庭の教育力の向上支援 — ぬくもり修学奨励資金支給事業				所管課	教育総務課
事業の概要	修学困難な生徒に対して修学奨励を図るため、高等学校、大学等の入学支度金として修学奨励資金支給する。					
目標・実績	市の将来のまちづくり活動に取り組む意欲をもってもらい、市の活性化を図る。 平成29年度 高等学校等 13名支給 大学等 5名支給					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	入学支度金として現状の金額が妥当かどうか、また、現行の支給対象要件が妥当かどうかを検討していく必要がある。					
	達成度	A	必要性	B	有効性	B
評価理由	修学困難な生徒の入学支度金として修学奨励資金を支給することで、進学しやすい環境づくりの一助となることができた。		評価理由 修学困難な生徒に対し高等学校・大学等の入学支度金として、修学奨励資金を支給し、市の教育環境づくりを図ることを目的とする。		評価理由 入学支度金として修学奨励資金を支給することは、修学率の増加につながることで「人を育て文化が薫るまちづくり」の一環として有効性が高いと考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境の格差による教育の不公平を少しでも補えるよう今後とも継続して支給されたい。なお、支給条件(金額も含めて)を再考し、就学率の上昇を図るべく検討されたい。一時金だけでなく、在学期間中の補助・援助を考えていただきたい。 ・非課税世帯が対象となっており、上記のとおりの実績となっている。修学困難な生徒に対して修学奨励を図るため、高等学校、大学等の入学支度金として修学奨励資金支給している。人育てに関わる事業で、現状の金額が妥当か、国の流れなども考慮して、さらなる充実を望みたい。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>経済的な理由により修学が困難な生徒に対する支援として必要な事業であり、今後も継続して事業を実施する。支給対象、金額、支給時期等については、他団体の状況を参考にしながら、今後検討を行う。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・就学相談、教育相談、子育ての悩み等相談体制の充実 — 教育相談事業	所管課	教育総務課
-----	--	-----	-------

事業の概要	臨床心理士による教育相談業務。主としては発達相談で、心理学的な見地から、保護者や教職員にアドバイスを行ったり、ニーズに応じて心理検査を行う。
-------	--

目標・実績	保護者・学校・幼稚園・保育所の担任、子どもが相談を受けることが可能で、家庭だけ、学校だけでない統一した子どもへの関わりや指導についてのアドバイスが可能であり、必要に応じて発達検査を行い、結果を保護者へ知らせ、相談を進めている。また、専門の相談員によるアドバイスがあるため利用者から評価が高く、幼稚園・保育所を卒園・卒業しても、継続して相談を受けるケースが多いため、今までの良い状態を低下させることなく事業を継続していかなければならない。
-------	--

教育自己評価 委員会の	成果と課題					
	問題を抱えている子どもたちが年々増えてきている中で、相談希望者の増加に伴い、相談員にもかなりの負担を強いている部分があり、この事業を継続していくうえでその点を考慮していく必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 相談者が抱えている不安や悩みを学校以外の場所で気軽に相談できる機関として確立できた。		評価理由 幼稚園・保育所など早い時期での対応が、その児童に添った形での就学に結びついたり、専門の相談員によるカウンセリングにより児童生徒だけでなく保護者や教諭にも必要な場所となっている。		評価理由 大宇陀地域事務所という落ち着いた環境で実施することにより、利用者が人目を気にせず相談室に行くことができる。また、相談室と検査室が隣同士であることから子どもも保護者も安心してそれぞれで相談検査を受けることが可能である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会のニーズに対応した必要不可欠な事業として、充実した取組を定着されていることに敬意を表する。 保護者が不安なく子育てできる家庭環境が整い、学校とも協力して一貫した子育て支援が行われることによって、豊かな人間性を持った健やかな子どもの成長が保証できると考える。そのためにもさらなる人員確保に努められ、事業の拡大を図られたい。また、誰もが利用できる相談場所として、その必要性・重要性をさらに周知され、活用されることを望む。 ・専門の相談員によるアドバイスがあるため利用者から評価が高く、幼稚園・保育所を卒園・卒業しても、継続して相談を受けるケースが多いため、事業を継続していかなければならないと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>児童生徒の抱える様々な問題への対応に教育相談は不可欠である。特別支援が必要な児童が年々増加し、内容も多様化していくなか、教育相談の需要は多く、今後も教育相談事業の拡充への取組が必要であると考え。</p>
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 － 教育センター事業(適応指導教室 はばたき)				所管課	教育総務課	
事業の概要	市内小中学校の不登校児童生徒の自立を図り、在籍校への復帰を促すとともに、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲化を図る。また、不登校児童生徒等に対する相談を保護者、教職員に対しても行う。						
目標・実績	適応指導教室に通室することで心の居場所をつくり、学習機会を確保することや、不登校の状態にある児童生徒の学校への復帰を促す。また、学校と連携を深め、状況に応じた適切な指導や学習の機会を設定し、学習継続への意欲を高める。教室以外の学習の場を設けることにより、児童生徒に選択肢を提供できる。						
教育委員会 自己評価 の	成果と課題						
	平成29年度は4名の正式通室生徒がおり、週2日、3名の指導員と補助員が相談・指導、学校との連携・調整を行った結果、2名が部分復帰した。しかし、通室しているのは不登校児童生徒の一部であり、まだ多くの不登校の子どもたちがおり、その子どもたちの居場所づくりが課題である。						
	達成度	A		必要性	A		
評価理由	正式通室者が4名で、2名が部分復帰。 保護者や教職員へのこの教室の存在が浸透しつつある。		評価理由	長期欠席をしている児童生徒で学校教員だけの対応では解決をはかれない場合や、学校に拒否感のある児童生徒に対する受け入れ態勢が必要である。多様な取組やきっかけづくりの一步として重要。		評価理由	通室者を自然に受け入れ、落ち着ける場所、自分を理解してくれる場所として重要な存在となっている。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育が終了した時点での支援を考えるなど、それぞれの子どもを取り巻く環境に働きかけ、より長期計画で見守りが継続でき、居場所が確保できることなどまだまだ課題は山積している。また、IT環境の拡大により、引きこもり問題などはさらに深刻な社会問題となると考える。学校への復帰にこだわることなく、社会と繋がる場所などの選択ができる受け入れ場所を構築されたい。 ・学校や保護者との連携を深め、個々人の状況に応じた適切な指導や学習機会の保障などが望まれる。適応指導教室に通室することで心の居場所をつくり、学習機会の確保や、不登校の状態にある児童生徒の学校への復帰を促すという大切な機会となる。教室以外の学習の場を設けることにより、児童生徒に選択肢を提供でき、保護者に対しても多様な取組やきっかけづくりの一步としても重要であるとする。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 平成29年度は4名の通室者のうち2名が部分復帰したが、市内の不登校者33名のうちの一部のみであるため、さらなる適応指導教室の活動内容の周知や、不登校児童生徒への入室への働きかけが必要である。現在は、主に通室者の心のケアを中心に行っているが、開室日を増やし学習する日を設け、学習の遅れが学校復帰の妨げにならないような対策をとる必要があると考える。					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・適応指導教室「はばたき」、通級指導教室「ほほえみ」、カウンセラー等の充実 － 教育センター事業(通級指導教室 ほほえみ)				所管課	教育総務課
事業の概要	小学校の通常の学級に在籍しているが、特別な教育的支援を必要としている子どもたちへ、担任以外の教育専門員によりそれぞれの子どもの実態に応じて通級による指導を行う。保護者、教職員、児童に対しても相談業務を行う。					
目標・実績	言葉の発達などの問題のため、本来もっている能力を十分に発揮しきれない児童に対し、個々に応じた指導を行い、生き生きと、スムーズに学校生活や社会生活をおくれるように支援する。通級指導児童が28名になり、定期的な指導相談ができています。教職員の相談や指導参観、教育相談も増えている。相談件数は39件、のべ相談回数は182回となった。					
教育自己 委員会の 評価	成果と課題 言葉や発達についての相談に対して需要が高く、相談を望む声が多く相談回数が増加している。今後も増加していく傾向にあると思われるため継続的な相談指導が必要である。また、家庭から出て、集団の場に入ることにより、社会性やコミュニケーションについて苦戦することがわかり相談に来られるケースが多く、指導員による適切な指導を図っている。					
	達成度	A		必要性	A	
	評価理由	通級指導が必要な子どもたちが、定期的に通級指導を受けることによってコミュニケーション能力を身につけ、上級学校への移行がスムーズになった。		評価理由	言葉やコミュニケーション、社会性に困難さを抱えている子どもたちが増えたので、学童期での早期対応、早期療育をすることが必要。需要が増加傾向にある。	
				有効性	A	
				評価理由	職員が言葉の専門家であるので、教職員と連携し、言葉の訓練を早くから行うことにより状態が改善されることが多い。特に学童期での関わりが重要であり、教職員や保護者への指導が有効。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 主なる 意見 から	<p>・通級することによりそれぞれの学校での生活が安定し、児童の健やかな成長につながる。言葉の専門家としてのぶれない指導が功を奏しているが、ニーズが多く負担が大きいのが現状であろう。人材確保、人材養成に努められ、適切な支援体制の充実を図っていただきたい。</p> <p>・言葉や発達についての相談需要が高く、相談回数が増加している。今後も増加していく傾向にあると思われるため継続的な相談指導が必要である。また、家庭から出て、集団の場に入ることにより、社会性やコミュニケーションについて様々なトラブルに出会うこともわかり相談に来られるケースが多く、指導員による適切な指導を図っている。教諭1人体制であるが、早急に2人への体制が望まれる。</p>					
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>通常学級に在籍する特別支援が必要な児童に応じた教育の場を確保するために必要な事業であり、今後も継続して事業を実施する。 対象児童が増加傾向にあり、指導者の負担が増加していることから、人員の確保や中学校への開室が課題となっており、県と連携しながら拡充を図りたい。</p>					
	事業の総合評価 【 1 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 青少年育成支援事業			所管課	生涯学習課
事業の概要	青少年の規範意識や社会性の低下が社会現象となり、その要因として親子のふれあいや信頼関係の希薄化、家庭や地域の教育機能の低下等がある。学校、家庭、地域が一体となり、地域ぐるみで子育てをする体制を構築することでこれらを解消し、子ども自身の力を伸ばし、青少年の健全育成と地域の連帯、ふれあいを深めることを目的に広報、啓発活動・有害環境浄化活動を実施した。				
目標・実績	未来を担う子どもたちを健やかに育むために、地域全体で教育に取り組む体制をつくり、地域全体の教育力の向上を目指す。 平成29年度は、街頭啓発事業等を各学校と連携のうえ実施した。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	街頭啓発活動として、市内中・高生から募集した青少年健全育成に係る標語を印刷したポケットティッシュを配布し、青少年の健全育成に努める。関係団体を所管したり、さまざまな支援活動を実施したりする青少年センターの設置が課題となっている。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
評価理由	街頭啓発活動や、有害図書の販売時の指導を実施したが、地域が連携して子どもたちを守る環境を充実していく必要がある。		評価理由		評価理由
			さまざまな活動を継続して実施し、各方面と連携しながら青少年健全育成を図る。		街頭啓発活動や、有害図書の販売時の指導を実施するなど、有効性は高いが単発的になりがちなことから、活動の幅を広げていく必要がある。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見	<p>・青少年の健全育成を図ることを目的にさまざまな啓発活動が展開されているが、最近のインターネット社会への対応は適切に行われているのか。一部の子どもたちのみならず成人もインターネットだけを頼りに、外部との接触を図らずに過ごしている現状にどのように対応すべきか、検討されたい。引きこもりの実数把握なども必要であり、その人たちの生涯にわたる学習をどのように保証していくのかなど課題は山積しているように思う。青少年センターの設置は不可欠である。</p> <p>・家庭の教育力の低下や親子のふれあい体験の不足などが原因となり、さまざまな社会問題が起こっている。青少年健全育成協議会では、街頭啓発活動として、市内中高生から募集した標語を印刷したポケットティッシュを配布し、青少年の健全育成に努めたり、関係団体を所管したり、花火大会の巡回をしたりしている。SNSの被害や支援、いじめ問題、虐待の状況などを踏まえ、今後はソフト面の支援も含めたさまざまな活動を実施したりする青少年センターの設置が課題となると考える。</p> <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>・青少年健全育成協議会等、諸団体との連携により、市民への啓発活動を積極的に進めていく。</p> <p>・急速にインターネットの普及が進む社会の中で、青少年の安全利用を促す施策を講じるために、市内の携帯電話会社等の事業所に協力を求めるなど、周知方法を検討していく。</p> <p>・青少年センターの設置については、当分の間の課題としているが、本市における体制づくりを模索し、引き続き検討を行う。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 1 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

	<宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業> 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 ー 子ども活動支援事業	所管課	生涯学習課			
事業の概要	地域教育力再生の契機として、地域ぐるみで学校をサポートするボランティア活動を支援することによって、子どもたちの学習補助や環境の整備、登下校の見守りなど子どもたちが安全で安心な学校生活がおくれる環境を整える。					
目標・実績	地域ぐるみで子育てをする体制を構築することにより学校と地域が連携して子どもたちの学習補助を行う環境整備を行う。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 市内全小・中学校において事業を実施し、それぞれの学校の取組において地域の方々との協働を実施している。スクールバスの運行時刻等の問題により、放課後に行う事業への取組に時間の制限がある。地域で意欲的に取り組んでもらえるように進めていきたい。					
	達成度	B	必要性	A	有効性	A
	評価理由	市内全小・中学校が事業を実施したが、ボランティアの確保が課題である。		評価理由 地域に開かれた学校づくりを目指し、地域の教育力を高めるために必要な取組である。	評価理由 地域の人々が学校運営に参画することができる有効な事業である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・家庭の教育力の低下が言われる中、子どもたちを地域ぐるみで育てる環境づくりが大切であると考え る。放課後子ども教室や土曜塾など、徐々に開かれた学校づくりが行われつつある。コーディネーターを 中心とした、ボランティアの活動を支援していく体制づくりに努めていただきたい。 ・地域教育力の再生をめざす事業で、地域ぐるみで学校をサポートするボランティア活動を進めること によって、子どもたちの学習サポートや環境の整備、登下校の見守りなど地域の特性と各学校の工夫が活 かされた活動が展開されている。学校教員の職務の多忙化が叫ばれる中、コーディネーターやボラン ティアの確保、見守りボランティアの継続など多くの課題があるが、開かれた学校づくりのためにも続けて いくことが大切であると考え。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性> 地域や学校の実情に応じた企画・立案ができるように環境を整えていきたい。そのために、地域コー ディネーター、ボランティアの確保に努める。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 3 地域全体で子育てを ・地域で取り組む児童虐待防止と「見守り」活動の推進 — 子どもフェスタ事業			所管課	生涯学習課	
事業の概要	あそび体験を通じて、仲間づくりや参加者の交流を深めるとともに豊かな感性を育み、未来を担う宇陀市の子どもたちの健全育成を図る。					
目標・実績	事業実施にあたっては、企画立案から実施までを実行委員会を通じて行っている。 実施内容は、紙飛行機大会、クラフト、軽スポーツ体験、紙芝居など様々なコーナーを準備。 当日は、子ども763人 大人549人 計1,312人の参加を得た。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 平成29年度は、1,312人の参加により、大人も子どもも一緒になってフェスタを楽しむことができた。実行委員会が主体となって事業に取り組むことができた。 ペットボトルキャップを集め、ポリオワクチンを海外へ届ける事業にも引き続き協力をしていきたい。 今後は、ボランティアの参加を維持していくことが課題である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	実行委員会の企画立案から運営まで、市民主導により事業を実施している。内容や模様を少しずつ変えながら、事業を補助していきたい。	評価理由	市内の子どもたちが一堂に会する機会を設け交流する、他に類のない事業である。	評価理由	体験を通じて仲間づくりや、さまざまな人との交流が図れ、豊かな心・健全な心の醸成の一助となっている。 また、榛生昇陽高校のボランティアの参加もいただけた。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 の 主 な 意 見 か ら	<p>・実施を重ねるにつれて、市の大きな事業として定着してきているように思う。楽しかった思い出を持った子どもが、成人してボランティアになって運営に参加している話も聞こえてくる。実行委員会の組織づくりが出来上がるよう支援し、後は企画運営は任せる形で実施されていることは評価に値する。</p> <p>・子どもたちの実体験不足やコミュニケーション力が社会的な問題となる中、体験を通じて、仲間づくりやさまざまな人との交流を深め、豊かな感性を育むことを目的としている。紙飛行機とばしやクラフト、軽スポーツ、紙芝居など内容は多彩で、企画立案、実施に至るまで多くの実行委員が関わり、運営されている。参加人数も多く、他に類のない大きな事業であり、継続することが望ましいと考える。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
---------------------------------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>子どもフェスタは、子どもたちが、実体験できる機会やコミュニケーション力の向上を図る機会として、有意義なイベントである。 今後、イベントを継続していく中で、ボランティアのかかわり方や運営方法等を工夫し、市民が主体となり、企画運営ができる環境づくりができるよう、実行委員会を通して検討したいと考える。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 公民館管理運営事業	所管課	中央公民館			
事業の概要	宇陀市民一人一人が、心豊かに健康で生きがいのある人生を過ごすために、生涯にわたって主体的に学習を継続することが求められていることを踏まえ、生きる喜びを分かち合える生涯学習社会の構築を目指して、地域課題や市民の学習ニーズに即した学習機会の提供を図るとともに、地域に根ざした公民館活動を推進する。					
目標・実績	身近な学習や文化活動が、誰でも気楽に活動できるような環境整備に努め、文化的活動の機会や地域住民と公民館活動をつなぐ情報提供に努めるとともに、各種団体と協力・連携し地域の教育・文化の振興を図る拠点とする。また、自主グループの育成を推進し、各分館の施設利用率の増加を図る。 ・平成26年度使用料(4分館) 3,052,740円 ・平成27年度使用料(4分館) 3,044,975円 ・平成28年度使用料(4分館) 3,388,675円 ・平成29年度使用料(4分館) 2,363,435円					
教育自己委員会の評価	成果と課題 公民館の施設利用のほとんどは自主グループ及び定期利用団体であり、利用率は概ね順調である。さらなる利用率向上を図るため自主グループの育成に努める。 ・平成27年度自主グループ登録数 40団体 ・平成28年度自主グループ登録数 38団体 ・平成29年度自主グループ登録数 38団体					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	適切な施設の維持管理及び運営ができたと考える。しかしながら、老朽化に伴い年々修理箇所が増えてきている。		評価理由	市民が「集い・学び・繋がる」機会と場の提供のため、公民館の必要性は高く、さらなる施設の環境整備に努める。	
		評価理由 実生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与できたと考える。				

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価意見から	・公民館の講座が一定の成果を見たら講座参加者の自主運営に切り替わり、公民館を活動拠点として活動し、施設利用率の増加を計っているが、自主グループとしてどれだけのグループが存続し続けているのか、ここ数年40団体を上回っていない要因を検証する必要はないのであろうか。(自主グループになって自主運営することの弊害は出ていないのか、一部の人の負担により運営されているグループはないのか、またそのため存続できなくなり数が増えないのか等)。 ・公民館の施設利用の多くは自主グループや定期利用団体であり、概ね順調である。使用料が平成29年度減少しているのは、総合センター改修工事のため休館したからである。3年間続けて開催をした講座は、自主グループにつながっており、さらなる利用率向上を図るため自主グループの育成に努めるなど工夫改善が望まれると考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉
今後の方針	市民のニーズに適した教育的文化的活動の機会を提供していくため広報誌「うだ」やホームページ等により啓発していくとともに、地域に根ざした公民館活動を推進するための拠点としての環境整備に努める。また、今後も自主グループの育成に努めるとともに、現在各分館で活動している自主グループと連携し、活動を支援する。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 各種講座・教室事業	所管課	中央公民館
-----	--	-----	-------

事業の概要	市民のニーズに合った講座の充実を図り、自主グループ・リーダーの養成とまちづくり・まちおこしなど地域社会参加の促進を図る。「定期講座」は各分館にて開催し、1年を通じて初歩から応用までを学習する。「市民教養講座」、「入門講座」、「生涯学習講座」については各分館を会場とし、各テーマを設けて、知識の向上、趣味の輪の拡大、健康の保持や生きがいづくりを目指した講座を開設。
-------	---

目標・実績	社会教育法に基づき、市民のために実生活に即した教育・学術・文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養向上、健康の増進を図り生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。 参加者述べ人数 1,661名
-------	--

教育自己評価 委員会の	成果と課題 各講座・教室では、応募者が定員以上になり抽選を行うものもあるが、反面、応募者が少なくやむなく中止したものもあった。人気の定期講座は開催回数を増やし、参加人数が少ない講座については、開催時期や時間を変更するなどの工夫が必要と考える。近隣市の講座の動向や市民が求める講座の把握に努める。また、周知についても広報誌や宇陀チャン以外にも市民への周知の方法を検討し、より多くの参加者を得るよう努める。今後さらに幅広い年代の受講生を対象とするため、時代に合った講座や開催時間の検討も必要と考える。同一講座を分館別に開催できないか検討中である。						
	<table border="1"> <tr> <td>達成度</td> <td>A</td> <td>必要性</td> <td>A</td> <td>有効性</td> <td>A</td> </tr> </table>	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	達成度	A	必要性	A	有効性	A	
<table border="1"> <tr> <td>評価理由</td> <td>評価理由</td> <td>評価理由</td> </tr> <tr> <td>幅広い年代層に興味を持っていただく講座内容、開催日時を検討が必要。また、参加者が少ない講座については様々な方法の周知を行い、随時募集を行うことも検討する。</td> <td>社会教育法に基づく公民館活動を達成するため必要と考えるが、適切な講座数、募集人数並びに開催回数の見直しも必要と考える。</td> <td>講座及び学級等を開催することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉等の促進を図ることができる。</td> </tr> </table>	評価理由	評価理由	評価理由	幅広い年代層に興味を持っていただく講座内容、開催日時を検討が必要。また、参加者が少ない講座については様々な方法の周知を行い、随時募集を行うことも検討する。	社会教育法に基づく公民館活動を達成するため必要と考えるが、適切な講座数、募集人数並びに開催回数の見直しも必要と考える。	講座及び学級等を開催することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉等の促進を図ることができる。	
評価理由	評価理由	評価理由					
幅広い年代層に興味を持っていただく講座内容、開催日時を検討が必要。また、参加者が少ない講座については様々な方法の周知を行い、随時募集を行うことも検討する。	社会教育法に基づく公民館活動を達成するため必要と考えるが、適切な講座数、募集人数並びに開催回数の見直しも必要と考える。	講座及び学級等を開催することにより、市民の教養向上、健康の増進、生活文化の振興、社会福祉等の促進を図ることができる。					

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・宇陀市は面積も広く、とはいえ公共交通機関が少なく不便であるので、利用者が利用しやすいように、同一講座の分館別開催は必要だと考える。 ・社会教育という立場から市民全体にアプローチするためには、平日夜間の講座も考慮されたい。 ・応募者が少なく講座を中止したり、人気の講座「ヨガ」では分館別に開催希望の声があがったりしているとのことだが、総合体育館の事業との類似事業の調整などさらなる工夫改善を重ねて継続することが大切だと考える。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 1 】</p>
--------------	--

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>引き続き定期講座や生涯学習講座、随時募集の市民教養講座や入門講座等各種の講座・教室を開催していくとともに、さらに事業の改善・工夫・検討をすすめる。また、受講生へのアンケート等により市民の学習ニーズを把握し、幅広い年代の方が多く参加できるように、開催場所・開催曜日・開催時間などを十分検討する。</p> <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 1 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 地域公民館活動支援事業				所管課	中央公民館
事業の概要	「宇陀市地域公民館活動支援補助金交付要綱」に基づき、対象となる公民館活動を行った自治会等に対して補助金を交付する。					
目標・実績	地域ぐるみで活発な生涯学習活動を目的とした地域公民館事業を支援することにより、より一層の充実と活性化を図る。 ・平成26年度補助金交付額実績:2,290千円 ・平成27年度補助金交付額実績:1,500千円 ・平成28年度補助金交付額実績:1,500千円 ・平成29年度補助金交付額実績:1,375千円					
教育自己評価 委員会の	成果と課題 地域づくりと連帯意識の醸成を図るための事業を推進するため、活動を支える助成措置は、有効に活用されてきたと考える。ただ、地域による支援補助金の平等化の方向性と、市が推進している「まちづくり協議会」の趣旨により、地域での公民館活動事業もまちづくりの一環として大きくとらえて、支援補助金の見直しが必要と考える。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由 地域の活性や問題解決のため、市は「まちづくり協議会」の設立を推進してきた。今後は各地域の「まちづくり協議会」と連携し社会教育を推進するため新たな支援の方法を創設する。		評価理由 平成29年度をもって本補助金は廃止し、新年度からは中央及び各分館と各まちづくり協議会との連携による社会教育推進講座の開設を推進する。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<p>・まちづくり協議会との連携による社会教育推進講座への移行するに伴い、新たな支援のあり方を模索していただきたい。</p> <p>・平成29年度をもって本補助金は廃止となる。新年度からは中央及び各分館と各まちづくり協議会との連携による社会教育推進講座の開設を推進することになっている。まちづくり支援課のアドバイザーなどと連絡調整を行い、これまでの成果を活かす方向で、ひとづくり・まちづくりを推進する必要があると考える。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 5 】
--------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>今までの活動内容や経過等を踏まえ、榛原・室生地域だけではなく、大宇陀・菟田野地域も含めた宇陀市全域に対する新たな施策として、まちづくり協議会と連携し、社会教育推進講座の開設を推進していく。</p>	事業の総合評価 【 5 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 4 人権文化の創造 「学びあい、支えあい、協働できる」社会教育環境づくり — 市美術展事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	平成29年11月3日～11月6日の間、市役所4階、5階において絵画・書芸・写真・彫塑工芸部門を設け、展覧会を実施した。					
目標・実績	出展数106点、来場者数延べ961人。参与作家の協力による作品の展示など、より格調高い市美術展覧会を目指していく。そのことにより、創作意欲の向上を促し、芸術文化の向上を図る。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	出展数は6点の増、来場者は293人の増で、ともに前年度より増加した。参与作家に出展をいただくなど、多くの来場者からは好評を得た。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	来場者が増加した。引き続き、開催の告知の仕方を工夫し、来場者の増加を図る。		文化芸術活動を行うことで創造力や表現力を高め、豊かな心を持った社会を形成していくに資する事業である。		文化芸術作品を創造し、鑑賞することで、心豊かな社会形成・魅力あるまちづくりを推進する。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・宇陀市が文化の豊かなまちであることを広く周知するいい機会である。開催内容等についてさらなる広報活動が望まれる。 ・平成29年11月3日～11月6日の間、市役所において絵画・書芸・写真・彫塑工芸部門を設け、展覧会が実施された。出展数は100点を越え、来場者も1,000人近くあった。この年は、台風で大きな災害があった直後で、大会議室が災害対策本部として使用できない状況になった。今後は、会場の変更が課題であり、創作意欲の向上を図り、芸術文化の進展を願い、継続していくことが望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、宇陀市の芸術文化の進展のため、教育委員会主催により、美術展覧会を開催する。平成30年度は、カエデの郷ひららで開催。 ・運営面での課題としては、文化協会等の市民の協力により市民が主体となる運営形態を検討していきたい。 ・宇陀市内における芸術文化の拠点となる環境づくりが課題である。
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 文化財保存修理等補助事業		所管課	文化財課	
事業の概要	国・県・市指定文化財(以下、「指定文化財」という。)の所有者(個人・宗教法人)が行う防災設備点検等経費の負担軽減、所有者が行う建造物等の保存修理経費の負担軽減、所有者が行う防災設備設置・収蔵庫建設・環境整備(草刈、庭木の剪定)等の経費の負担軽減、また市指定民俗文化財を維持傳承していくため、後継者を育成するための経費等の負担軽減を図ることを目的に、これら文化財保護に関して補助金を交付する。				
目標・実績	指定文化財の保存修理、防災設備設置・点検、環境整備、収蔵庫建設、民俗文化財傳承等を実施した団体又は個人に対して補助金の交付を行い文化財の保護を推進する。 (平成29年度 保存修理 5件・防災設備点検等 8件・防災設備設置 1件・収蔵庫建設 1件・環境整備 2件・民俗文化財傳承事業 4件)				
教育委員会 自己評価 の	成果と課題				
	指定文化財の保護・管理等の諸事業の実施により、適切な状態に保たれている。点検等により不具合が発見されれば修理を行い、毎年の防災設備の点検等は消防法の規定に基づき実施され、機器等は良好に作動している。今後も、指定文化財の適切な保護・管理を行っていくため、国、県、所有者と連携しながら継続していく。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
評価理由	評価理由		評価理由		
防犯設備の整備をされた寺社も増え、所有者とともに指定文化財の適切な保護・管理等ができた。	指定文化財は、その重要性に鑑み、適切な管理を行うためにさまざまな法的規制があり、指定文化財の保護・管理を適正かつ円滑に実施するには、特別な経費を要する。事業実施にあたり、所有者の負担軽減を図ることは、文化財の保護に貢献する。		指定文化財の適切な保護・管理が実施でき、貴重な文化財を後世に伝えていくことができる。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者に理解を求め、貴重な文化財を後世に伝えていくために、適切な保護管理を行うことは現代に生きるものの責務である。 ・適切な保護管理に関して、市民の理解を深めるとともに後継者の育成にも尽力されたい。 ・年次ごとに計画的継続的に実施され、設備が整備された寺社も増え、文化財保護に貢献しており、貴重な文化財を後世に伝えるため推進していく必要が大きいと考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>指定文化財の保護と後世への継承を目的に、今後も文化財所有者と協力し防犯・防火設備整備等を進める。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 薬の館管理運営事業		所管課	文化財課
事業の概要	市民の歴史・文化意識の向上を図るとともに、伝統的建造物に対する理解を深めることを目的とし、内部公開を兼ねた展示施設『宇陀市歴史文化館「薬の館」(宇陀市指定文化財)』の管理・運営を行っている。 建物の公開・管理・運営等が主な業務で、シルバー人材センターに管理委託している。建物の修理等は文化財課が実施している。			
目標・実績	松山地区の代表的な商家町屋で、薬関係の展示施設となっており来館者が多く訪れる。生涯学習の教材として小学校等の授業にも活用されている。宇陀松山の歴史を学び、伝統的な空間を体感できる施設である。 薬の館(旧細川家住宅)は、江戸時代末期の建築と推定される。細川家は薬問屋であり、薬商として「人参五臓園」「天寿丸」という腹薬を販売。館内では薬関係の資料を中心に展示し、平成28年度には大型の鍾馗像の寄贈を受け展示している。有料公開{入館料大人300円小人150円(団体 大人200円小人100円)}。平成29年度の入館者数は、2,316人。			
教育自己評価の	成果と課題			
	月・火の休館日においても、視察団体等の予約が入れば特別開館し、来館者数の確保に取り組んでいる。 今後も入館者数を増やすための展示やイベントが必要であると感じている。			
	達成度	A	必要性	A
評価理由	評価理由		評価理由	
多くの方々が来館し、見学していただき、大型の鍾馗像の展示は好評を得ている。	当施設は、重要伝統的建造物群保存地区内の伝統的建造物でもある。歴史を学ぶ施設、伝統的な空間を体感できる施設は少なく、公開する必要がある。		多くの方々が来館し、当館の薬の歴史を学んだ。必要に応じて管理人が館内の案内や説明を行い、理解を深めてもらっている。また、他市町村等からの視察や市行事での施設見学会も行っている。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の評価員から	<p>・鍾馗像の有効利用を考えるとともに、薬草として脚光を浴びている「大和当帰」の活用も図られたい。利用者の増加を見通した、展示会等の開催などを企画し、広く広報されたい。</p> <p>・宇陀松山の歴史を学び、伝統的な空間を体感できる施設であり、大型の鍾馗像の展示も好評を得ている。必要に応じて、管理人が館内の案内や説明を行い、体感的に歴史を学ぶ貴重な公開施設として継続していく必要がある。</p>
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>今後は鍾馗像の活用を図るとともに、関係課と協議を行い、大和当帰などの薬草展示により、来館者の増加を図る。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 重要伝統的建造物群保存地区保存事業		所管課	文化財課		
事業の概要	<p>周囲の環境と一体をなして歴史的な風致を形成している伝統的な建造物群を「伝統的建造物群保存地区」、国は特にその価値が高いとして宇陀松山地区を奈良県で2番目の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定した。国選定は平成18年7月5日・指定面積17ha・保存事業期間 平成18年度～。</p> <p>歴史的街なみの特性を維持回復するため、地区内の伝統的建造物の修理及びそれ以外の建造物の修景に対して補助金の交付を行い、防災施設等の整備も行う事業である。</p>					
目標・実績	<p>歴史的風致を構成する要素である伝統的建造物の中でも「特定物件(所有者の保存同意を得た伝統的建造物)」を増やすことが必要不可欠であり、また、伝統的建造物以外の建物の修景も景観の保全には必要であり、これらの修理・修景補助の件数を増やし、歴史的な街なみを保全する。住民参加型の検討会を開催し重伝建地区の安全・安心を図る防災計画を策定した。松山地区の代表的な建物の大宇陀福祉会館の耐震改修工事実施設計業務を実施した。平成29年度の町家の実績は、特定物件の修理7件を実施。</p>					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	<p>特定物件(伝統的建造物)の指定は所有者の同意が必要であることから、町家の修理事業と同時に特定物件指定を受ける所有者が増えている。修理事業の相談時に所有者へ特定物件指定を働きかけることにより事業推進が図れた。今後は、大宇陀福祉会館耐震改修工事の実施と防災計画に基づき、松山地区住民と協働で防災設備整備事業を進める必要がある。</p>					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	町家の修理事業は予定通り完了できた。防災計画が策定できた。大宇陀福祉会館の耐震改修実施設計が完了した。	評価理由	修理・修景が必要な物件の数は多く、歴史的景観の保全には町家の回復が必要不可欠である。老朽化した町家は、修理により安全・安心な住居となり、生活環境の向上が図れている。木造建築物が多くを占める地区には、防災計画に基づく防災施設整備が必要である。	評価理由	「街なみの景観が良い」と来訪者も増えてきており、メディアの取材や行政視察も相次ぎ、今後の集客にも期待ができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 評価 員 意見 から	<p>・イベント時の来訪者の増加を図るだけでなく、年間を通して街なみを見学することの価値を広めていただきたい。大宇陀福祉会館が見学の拠点となるような活用がされることを期待する。</p> <p>・町家の修理事業と特定物件指定を受けている所有者が増え、観光おもてなし施設として、大宇陀福祉会館耐震改修工事を進めている。「街なみの景観が良い」という声も多く、メディア取材もあり、事業の推進と継承が必要である。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------------------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の 方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>歴史的な街なみ景観を守るため、町家修理補助の推進を図るとともに、大宇陀福祉会館改修工事を進め来訪者へのおもてなし施設整備を推進する。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-----------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 － 埋蔵文化財発掘調査事業				所管課	文化財課
事業の概要	市内遺跡の発掘調査、個人の開発行為に先立つ事前の発掘調査、遺跡保存を目的とした範囲確認調査、過年度に実施した発掘調査の調査成果整理、市内遺跡の分布調査、出土遺物保存処理、公共工事に伴う事前の発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の保護対策を講じる。					
目標・実績	遺跡の発掘調査を行い、保護対策を講じるとともに記録を行い、後世に郷土の歴史を伝える。 下城・馬場遺跡では個人の開発行為に先立つ発掘調査と保存のための発掘調査を行い、遺物整理作業(整理箱8箱)を実施、出土遺物の金属製品(鉄釘10点、銭貨1点)の保存処理を行った。 菟田野地区において分布調査及び聞き取り調査も実施した。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	発掘調査により貴重な埋蔵文化財(遺跡)の保護対策(遺跡の記録・遺物整理等)を講じることができた。 市内には、未調査の埋蔵文化財が多数あり、今後も計画的な発掘調査が必要である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	下城・馬場遺跡から多くの遺物が出土し、出土遺物の整理作業等を行い記録を残すことができた。		発掘調査により出土した埋蔵文化財は、郷土の歴史や生活環境を知るうえで重要な史料となる。		埋蔵文化財(遺跡)の保存・整理は、郷土の歴史を後世に伝える重要な業務である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の見から	<p>・市内にある多くの遺跡を損なうことなく後世に伝えるよう、発掘調査等を計画的に進め、市民の理解を得ながら保存活動に努めていただきたい。宇陀の歴史を後世に伝えることは重要な業務である。</p> <p>・澤城の麓、下城・馬場遺跡では個人の開発行為に先立つ発掘調査と保存のための調査を行い、遺物整理作業を実施、出土遺物の金属製品の保存処理を行っている。学校などへの遺跡に関わる出前授業も実施されており、郷土の歴史を後世に伝えるため、今後も計画的に進められる必要があると考える。</p>	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
-----------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>市民の協力のもと発掘調査を実施し遺物等の保存に努めるとともに、過去に出土した遺物整理等も行い郷土の歴史を後世に伝える。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 － 街なみ環境整備事業			所管課	文化財課	
事業の概要	松山地区の「松山らしさ」の再確認と新たな展開に向けて、「伝統的な街なみ」や「伝統的な暮らし」に着目するまちづくりを進め、総合的なまち活力の再生を図る。 平成13年度より平成32年度までの20年間で、歴史的な街なみの骨格となる道路を中心に地区内(約35ha)の生活環境施設、公園、防災施設等の整備事業を実施し、歴史的、生活的、自然的な環境を生かした、住民の発意と創意に基づく街なみを形成する。					
目標・実績	松山地区の特性に応じた個性的で質の高いまちづくりとするため、道路と電柱の美装化・街路灯整備・公園整備・生活環境施設整備・防火施設整備等の住環境の整備改善を行う。 (宇陀市大字松山地区 整備区域面積 35ha) 平成29年度は松山通り道路美装化工事 工事延長約L=129m を実施。					
教育委員会 自己評価 の	成果と課題					
	街なみ環境整備事業により、横断電線類の地中化、道路の美装化工事により、質の高い古い街なみを形成することができた。 松山地区の主要道路である松山通り道路美装化工事により、街なみ景観の改善ができた。道路美装化工事も終盤となり、今後も地域住民の協力を得ながら事業を推進する必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	松山通りは狭隘な地域の主要道路であるが、地元住民の協力により事業実施することができた。	評価理由	横断電線の地中化と道路の美装工事は、松山地区の個性的で質の高い歴史的なまちづくりに必要である。	評価理由	道路美装化が進み、町家の修理とともに歴史的な街なみ環境を生かした、住民の発意と創意に基づく街なみを形成することができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・道路美装化が一応の終了を見たが、初期に整備し、現在、再び修復が必要となっている箇所を速やかに補修し、美しくなった街なみの保全に努めていただきたい。今後は、地域住民の理解を得られるような形で、集客の増加に努められたい。 ・電線の地中化や道路の美装化、街路灯整備などが継続的に行われていて、道路美装化工事は完了に近づいている。また、防火水槽の設置などでも地域住民の発想を取り入れ、協力して、街なみをつくっていく必要があると考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
------------------	---	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>街なみ環境整備事業も終盤ではあるが、街なみ景観保全のための無電柱化も時代とともに進める必要が出てきているため、事業当初の再整備も含めた検討を同時に行う。</p>	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 ー 史跡宇陀松山城跡保存整備事業			所管課	文化財課
事業の概要	宇陀松山城は、豊臣政権のもとで、大和郡山城・高取城と並ぶ大和支配の拠点として誕生した。残念ながら城は、30年という短い期間でその役割を終えた。宇陀松山城跡の特徴として、城郭全域にわたって城割(しろわり)を受けていることが挙げられる。現在、地表観察等で確認できる城跡の状況は、城割後の姿であり城郭構造を詳細には反映していない。 宇陀松山城跡の史跡指定地は67,667㎡であり、そのうち総石垣づくりの中心郭部分22,450㎡の公有地化を実施している。整備範囲は公有地化を行った範囲を中心に城跡部分を対象とする。				
目標・実績	宇陀松山城跡の特徴として城割を受けていることが挙げられ、遺構内容・城割の状況と範囲・石垣等の崩落箇所の保全・修復等の関係を十分に検討しながら保存整備と城跡麓までの登城路整備を進めている。 平成29年10月の台風21号の豪雨により、城跡斜面が被災したため、平成29年度以降の城跡保存整備工事は一時中断することとした。 城跡麓までの登城路整備事業は、第3期・第4期工事の完了により、登城路整備事業が完了した。				
教育自己評価委員会の	成果と課題				
	平成29年10月の台風21号による豪雨により城跡南面の斜面2箇所が大きく崩落した。また、史跡地内9箇所も法面が被災したため、城跡保存整備工事は一時中断し災害復旧事業を優先して進める。 登城路整備事業は完了したが、災害復旧工事用道路として当分の間は使用することとなる。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	城跡麓までの登城路整備事業を完了することができた。		宇陀松山城跡は、宇陀市のシンボルとして位置づけられており、重要伝統的建造物群保存地区に選定された松山地区の城下町と一体的に整備する。		松山重要伝統的建造物群保存地区と一体的に整備し、歴史資源として観光施策との連携を行い、より多くの集客を図っていくことができる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の主な意見から	・平成29年10月の台風による城跡の一部崩落により復旧作業が優先されており、観光施設としての整備が遅れているが、松山地区と一体的に整備し宇陀市のシンボルとしての位置づけが確立することを期待する。 ・平成29年10月の台風21号により、大きく斜面が崩落し、災害復旧工事が優先して進められている。松山重要伝統的建造物保存地区と一体的に保存し、歴史資源として活用を図る必要があると考える。				
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 平成29年10月の台風により大きく被災したため、災害復旧工事を優先的に実施し、宇陀松山城跡整備事業については災害復旧工事完了後に早期の整備を行い歴史資源としての活用を図る。				
	事業の総合評価 【 1 】				

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・史跡と文化財学習の推進、伝統文化の推進と継承 — 史跡森野旧薬園保護事業				所管課	文化財課
事業の概要	享保14年(1729年)幕府から官園において栽培していた種苗が下付され、薬草等を植えたことにより薬園が始まる。大正15年には、国史跡に指定され史跡地内の桃岳庵や石水亭などの建造物も遺存し、古くから地域に自生していた有用植物が生育し、生態学的な価値も高く薬園としての旧態が良く保たれている。 しかし、近年は環境悪化が進み建造物は老朽化による傷みも著しく、また、獣害による植物の衰退、近縁種との交雑による種の消失等の荒廃が進行しつつある。江戸時代から引き継がれてきた当園の適切な保存・管理を行うため、保存活用計画に基づき保存事業を実施する。					
目標・実績	国史跡森野旧薬園が有する特徴や価値を良好な形で維持するために、旧薬園の沿革・既往調査資料・現地踏査による現状の把握、史跡指定範囲の敷地測量を実施。有識者による策定委員会を開催し、旧薬園がもつ本質的価値を明らかにした保存活用計画の策定を行った。 桃岳庵の現況調査業務と改修工事実施設計を行った。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 旧薬園の既往調査資料の整理、現地踏査により旧薬園の施設管理や薬草管理等の問題点が策定委員会で議論され、保存活用計画が策定された。 適正管理は森野旧薬園だけではなく、行政や地域住民等がどのように関わり保存・管理を進められるかが課題である。					
	達成度	A		必要性	A	
	有効性	A				
評価理由	森野旧薬園保存活用計画を策定した。桃岳庵の現況調査及び改修工事実施設計が完了した。		評価理由 旧薬園を良好な状態で維持するため保存活用計画に基づき、歴史ある建造物等の計画的な保存修理が必要である。		評価理由 旧薬園は松山重伝建地区内に位置し、観光客が有料にて見学できる施設であり、環境整備することにより観光スポットとしてさらに来園者が増えることに期待できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> ・桃岳庵の立地場所が急勾配で、重機等が入れず修理に困難を期しているということであるが、旧薬園としての価値を損なうことなく、速やかな保存修理が行われることを望む。 ・保存活用計画に沿って、個人所有者と打合せしたうえで事業を進める必要がある。来訪者も年間数千人規模であり、観光スポットとしても期待が大きい。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 史跡森野旧薬園には歴史的建造物が多数有り、そのほとんどが老朽化により修理の時期を迎えている。桃岳庵を改修し、他の歴史的建造物も所有者と協議しながら保存修理を進めていく。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・自然保護と環境学習の推進 — 国指定天然記念物等保護再生事業	所管課	文化財課
-----	---	-----	------

事業の概要	宇陀市内には多くの国指定天然記念物が存在し、これらを後世に伝えるためにも危機に瀕している天然記念物を保護し、再生を図る必要がある。 向淵スズラン群落は、自生地が南限地として国に指定されているが、環境の変化によりスズランが衰退しかけている。また、特別天然記念物オオサンショウウオは、宇陀市室生の河川に生息していることが近年確認されたが、全国的に生態系が解明されていないことから、まず棲息状況確認とチュウゴクオオサンショウウオとの交雑化を確認、記録し、日本固有種の保護が急務となっている。大宇陀小附所在のカザグルマ自生地は、周辺樹木の成長とともに生育環境が悪化し消失が危惧されたため、平成9年から生育調査や保全対策を講じている。
-------	---

目標・実績	向淵スズラン群落は、天然記念物に指定された昭和5年頃は、自生地周辺は雑木林であったが、時代の変遷により、杉・檜の植林による日照不足や、下草刈りの減少等によりスズランが減少してしまった。平成8・9年の原因調査では約5,500株であったが、その後の保護活動として年2回の下草刈りの実施等により、平成23年では約36,000株まで回復することができた。オオサンショウウオは、現在、室生ダムより下流の室生川、大野川、深谷川等で生息が確認されている。平成24年度に三重県教育委員会・奈良県教育委員会が策定した「特別天然記念物オオサンショウウオ保護管理指針」に基づき平成27年度から本格的に生息調査を実施している。カザグルマは継続してモニタリング調査を実施している。
-------	---

教育委員会の自己評価	成果と課題					
	スズランは、これまでの観察と管理や地域住民への現地指導等も行い、平成29年度では約40,000株が生育しているが、鹿の食害により平成28年度から減少となった。今後も定型な管理や外来種であるドイツスズランの混在が確認されれば、その都度除去する必要がある。オオサンショウウオは、宇陀市内でこれまでに281個体が捕獲され、DNA鑑定により20個体の交雑種が確認されている。今後も生息調査等を継続し、日本固有種の保護を図る必要がある。カザグルマは、41個体群を確認しているが減少傾向にあり、今後も保護・増殖を図る必要がある。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	天然記念物への保護対策により、日本固有種の保護ができた。		外来種等は繁殖力も強く、日本固有種が減衰する要因ともなっている。植生調査等により外来種を排除することは、重要な措置である。		宇陀市内の天然記念物を保護することは、後世への継承となる重要な業務である。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・天然記念物の保護・保全は、自然と共存することによる難しさが伴う。自然環境の悪化や鳥獣被害など、思うに任せない要因による課題が山積しているが、市内の天然記念物を後世に継承するために地道に取り組んでいただきたい。 ・向淵スズラン群落は、時代の変遷により、スズランが減少してしまった。その後の保護活動として年2回の下草刈りや鹿の柵の設置等により、平成23年では約36,000株まで回復することができた。オオサンショウウオは、室生川、大野川、深谷川等で生息が確認されている。平成27年度から本格的に生息調査を実施し、親子向けの学習会なども行われている。カザグルマは継続してモニタリング調査を実施しているが減少傾向にある。日本固有の記念物であり、後世に継承できるよう保護対策を継続していかねばならない。 <p style="text-align: right;">点検評価支援員による総合評価 【 2 】</p>
--------------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 天然記念物の再生には時間を要するため、後世に引き継げるよう今後も保護事業を継続的に実施する。 <p style="text-align: right;">事業の総合評価 【 2 】</p>
-------	---

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 小学校水泳教室事業			所管課	総合体育館								
事業の概要	市内の小中学校2、3年生を対象に、水泳を通してスポーツの楽しさを知り、生涯にわたりスポーツに親しむことを目的として、夏休み2日間にわたり水泳専門講師によって授業を行う。												
目標・実績	水泳技能を学び、水泳の楽しさを知ることや基礎体力の向上、健康づくりの推進を図る。												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> <th>増減率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水泳教室生徒数</td> <td>168 人</td> <td>135 人</td> <td>80.4%</td> </tr> </tbody> </table>						平成28年度	平成29年度	増減率	水泳教室生徒数	168 人	135 人	80.4%
	平成28年度	平成29年度	増減率										
水泳教室生徒数	168 人	135 人	80.4%										
教育委員会 自己評価 の	成果と課題 ・小学校生活で低学年に、水泳等のスポーツに親しむことなどで多くの経験を積むことが、その後の学校生活を豊かにする。 ・全学校の参加者を班編成して振り分けることで、受講時間が少なくなる。 ・スクールバスでの送迎に移動時間が多くかかる地域がある。												
	達成度	B	必要性	A	有効性	A							
	評価理由	対象生徒の約4割弱の子どもたちが参加している。		評価理由 夏休みの時期を利用して専門講師に学ぶことができる。	評価理由 水に慣れることができ、水泳技能や基礎体力等が身につく。								

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見	・海のない県に育った子どもたちにとって、河川で泳ぐことも少ない中、プールで水泳を身につけることは、今後の災害時に生き残れるかということにもつながる。着衣水泳なども全員が一度は経験するなど、水の怖さを知ることも必要な時代になっているのではないだろうか。まずは水泳教室で水に慣れ親しむことが、大切ではあるが、必要性を広く知らしめて、参加者の増加に努めていただきたい。 ・施設の休館日を利用し、開催するなど工夫を重ね、利用者もここ数年、130人以上が参加しており、専門講師に学ぶ貴重な機会となっていて、水泳技能の基礎づくりにつながっていると考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 子どもたちの水泳技能や基礎体力向上のために今後も事業を推進し、募集方法等も工夫しながら参加者の増加に努める。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 水泳教室事業			所管課	総合体育館
事業の概要	水泳教室を専門業者に業務委託し、一年を通して専門講師から能力に合わせた技能を習得する。 ①水泳教室(幼児コース、児童・生徒コース、成人コース) ②水中ウォーキング ③水中エアロビクス				
目標・実績	ジュニアにおいては水泳の基礎技能を学びスポーツの基礎体力をつける。また、成人は水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながら、健康増進を図る。				
		28年度	29年度	増減率	
	水泳教室生徒数	351 人	413 人	117.7%	
	水中ウォーキング生徒数	7 人	7 人	100.0%	
	水中エアロビクス生徒数	12 人	16 人	133.3%	
	合計	370 人	436 人	117.8%	
教育自己 委員会 の 評価	成果と課題				
	ジュニアオリンピック出場者や全国高校記録保持者を輩出し、水泳選手を育てる役割を果たしている。また、成人においては、水に親しみ、水泳の楽しさを知ってもらいながらの健康づくりに貢献した。				
	達成度	B	必要性	A	有効性
	評価理由		評価理由		評価理由
	前年度に比べ生徒数が増加した。		市内で一年を通して気軽に子どもたち等が水泳を学べる唯一の施設として受講生が多い。		技能に合わせてクラス選択でき、上級から選手コースまで気軽に学べ上達できる。

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 の 主 な 見 か ら	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で一年を通じて水泳を学べる場所として、また高齢者が体への負担を少なくして運動できる施設としてさらに有効利用ができるよう広報に努められたい。そのための環境整備・人員確保も必要である。 ・水泳教室を専門業者に業務委託し、「健幸都市ウェルネス」事業の一環として、一年を通して行われている。水泳教室(幼児コース、児童・生徒コース、成人コース)と水中ウォーキング、水中エアロビクスが行われ、利用者も増加しているが、水中ウォーキングは対象者が7人であり、見直しが望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後 の方 針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <p>子どもたちの体力向上や選手育成、成人の健康づくりのために今後も事業を推進し、受講者増加につながる環境整備や広報活動に努める。教室内容についても、受講者数の推移や受講者からの要望等を聞きながら見直し等を図る。</p>
	事業の総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 宇陀市小学校対抗子ども駅伝大会事業				所管課	総合体育館
事業の概要	長距離走を通して子どもたちの体力向上と健全育成を図るとともに、スポーツ全般に必要な基礎体力や連帯感を養い、豊かな人間性をつくる。 ・「宇陀市駅伝チャレンジ大会」において、小学校5、6年生の8名1チームとして市内各小学校より集まりタイムを競う。 ・各小学校5・6年生に希望者を募り、駅伝練習を3ヵ月間行った後、「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」に参加する。					
目標・実績	駅伝の楽しさを知り、学校の枠を越えて子どもたちの仲間意識や人を思いやる心を育てる。 ・宇陀市駅伝チャレンジ大会 参加:14チーム(106人) ・奈良県市町村対抗子ども駅伝大会 練習参加:19人 大会成績:11位(39チーム)					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	駅伝の楽しさを知り、基礎体力を高め、仲間の団結を生み、将来にわたるスポーツ振興を図った。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由		評価理由		評価理由	
	チャレンジ大会においては、参加チームが増えた。また市町村対抗駅伝大会においては、参加児童が練習会に熱心に参加し、体力の向上につながった。		学校間を超えた仲間づくりができる。		駅伝の楽しさを知り、仲間との連携を学ぶことが将来にわたるスポーツ振興と豊かな人間性を育むことにつながる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	・小学校との連携を図り、お互いが無理のない計画の中で、参加者を増やして大会を成功させておられる。小学校間の交流の機会ととらえ、市内の子どもたちが連携できるよう運営されたい。また、県の駅伝大会に向けて、子どもたちの仲間意識を高め、連携することの大切さを学ぶ絶好の機会として、計画的に練習を重ねて望んでいただきたい。 ・長距離走を通して子どもたちの体力向上と連帯感を育むなど健全育成を目的に、「健幸都市ウェルネス」事業の一環として行われている「宇陀市駅伝チャレンジ大会」の初回大会は7チームの参加であったが、昨年は14チームと倍増し、応援の人も増えてきている。「奈良県市町村対抗子ども駅伝大会」にも希望者を募り、3ヶ月にわたる練習を重ね、参加を重ねている。					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 駅伝という競技を通じて子どもたちの基礎体力の向上や仲間との連帯感を養い、子どもたちの健全育成の一環となるように、安全面にも十分配慮した大会運営に努める。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	(宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業) 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 ー 大人のための運動教室事業	所管課	総合体育館
-----	---	-----	-------

事業の概要	室内温水プール及び総合体育館内の施設を利用した継続型の運動教室の開催。
-------	-------------------------------------

目標・実績		28年度	29年度	増減率
	健康エクササイズ	11 人	14 人	127.3%
	エアロビクス	11 人	24 人	218.2%
	ピラティス	19 人	24 人	126.3%
	ヨガ	25 人	44 人	176.0%
	アクアビクス	30 人	18 人	60.0%
	膝腰改善	47 人	49 人	104.3%
	合計	143 人	173 人	121.0%

教育自己 委員会 の 評価	成果と課題					
	運動を始めたいと思っている人や、運動の必要性がある人が運動実践を体験でき、定期的に開催することで運動の習慣化につなげていける。平成29年度からは、一部教室については、応募多数のため会場を総合体育館格技室に変更し実施した。					
	達成度	B		必要性	A	
	評価理由		評価理由		評価理由	
	健康のため何らかの運動をしたいと思っている人に運動を実践する場を提供できた。		「ウェルネスシティ宇陀市」を掲げ、市民の健康づくりを推進していくうえでも、継続型の運動教室は必要である。		健康増進、体力維持、疾病予防だけでなく、人とのコミュニケーションを深めながら、心身の健康づくりに寄与できる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 から の 主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・アクアビクスを除いて全体的に参加者・利用者が増加している。高齢者社会に向けて健康志向の高まりと捉えるが、さらなる利用拡大を図って、魅力的な教室運営と広報に努められたい。 ・中高年の大人を対象にして、室内温水プールと総合体育館内の施設を利用して運動教室を開催している。上記の実績どおり、ほとんどの教室は参加者が増えている。「アクアビクス」については、平成28年にスタートしたが、利用者が大幅に減っており、内容の改善もしくは別の教室開催など、見直しの必要があると思われる。
	点検評価支援員による総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後 の方 針	(施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性) 心身の健康づくりに寄与できる継続型の運動教室として、受講者のニーズも取り入れ、教室内容の変更等も視野に入れながら今後も事業を推進し、受講者の増加に努める。
	事業の総合評価 【 1 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 宇陀シティマラソン事業	所管課	生涯学習課		
事業の概要	「走ろう宇陀！ふれあう心」をスローガンにファミリーの部から10kmの部まで市役所周辺を会場にマラソン大会を開催。 ※温泉手湯や食推元気汁のふるまい、宇陀市の特産物のPRなどをかねて大会を開催。				
目標・実績	宇陀の豊かな自然の中で、市民をはじめ参加する方々の健康の維持増進、健幸都市ウェルネスシティ宇陀市を目指し、お互いの交流と親睦を図るとともに、青少年の健全な育成を目指す。 平成29年度は1,700名を超える申し込みをいただくとともに、約400名のボランティアスタッフの協力により、大会を成功させることができた。				
教育委員会 自己評価 の	成果と課題				
	本大会は、毎年恒例となっており、特に10kmの部において市内外からの申込者が多く、ホームページ上で大会運営に対する好評も得ている。 宇陀製品の展示・販売を大会と合わせて行っていただき、今後も工夫しながら運営していく。				
	達成度	A	必要性	A	有効性
評価理由	評価理由		評価理由		
定員を超える参加申し込みをいただくとともに、約400名のボランティアスタッフの協力による市民協働のマラソン大会となっている。	宇陀市開催のスポーツイベントとしては最大規模であるとともに、健幸都市ウェルネスシティ宇陀市構想の一翼を担っている。		誰もが参加しやすい距離設定で健康保持増進が図れ、市外からの参加も多く、宇陀市のPRにつながっている。		

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ノウハウは確立してきているように思われるので、組織だった実行委員会などが中心となって、自主的に運営できるものではないのか。参加者数が多く、事務処理が煩雑で、生涯学習課の中心的事業としての負担が大きすぎるのではないかと思う。 ・10kmコースについては遠方よりの参加者が多く、ランナーにとっては魅力あるコースとなっている。 ・ファミリーの部から10kmの部まで市役所周辺を会場にマラソン大会を開催して、11回となる。参加者は、1,500人以上で宇陀市開催のスポーツイベントとしては最大規模である。400名のボランティアの協力による市民協働の大会で、温泉の足湯手湯や食推委員による元気汁のふるまい、宇陀市の特産物のPRなどを兼ねて開催されている。継続することが望ましいと考える。 	点検評価支援員による総合評価 【 2 】
----------------	--	----------------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<p>〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した大会運営ができるノウハウは確立してきたが、実行委員会組織による完全自主運営ができるまでには至っていない。 ・運営形態を見直すことが必要と思われる。市民主体で開催できる方向性を実行委員会とともに検討していきたい。 	事業の総合評価 【 2 】
-------	---	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 市民スポーツ大会事業				所管課	生涯学習課
事業の概要	広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心の健康、体力の増進と競技力の向上を目指すもので、22種の競技を実施した。					
目標・実績	広く市民にスポーツ活動を行う機会を提供し、心身の健康、体力の増強と競技力の向上を目指し、生涯を通じたスポーツ活動の振興を図る。					
教育自己 委員会 の 評価	成果と課題					
	22競技団体により各種目において大会が実施された。 人口減少に伴い競技人口は減少傾向にあるが、一人でも多くの市民がスポーツ活動が行なえる環境整備が課題である。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由 今後も多くの市民が、継続して、毎年楽しみながら参加していただけるような大会運営ができるよう体育協会を通じて啓発していきたい。		評価理由 参加者は、約22種類の競技から自分に合った競技種目を選択し、1,000人を超える市民に参加していただいている。健康増進にたいへん効果的である。		評価理由 健康の保持増進、体力の向上、余暇の充実といった精神面の健康増進、集団で参加する場合の社会性の育成も図ることができる。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検 評価 員 から の 主 な 意 見	<ul style="list-style-type: none"> ・体育協会専門部による運営で、補助金支出による委託事業であるが、適切に運用されていることが確認できればいいと考える。ただ、それぞれの組織に参加所属している一部の人たちのものにならないよう点検を実施されたい。また新しく始めたい人には、門戸が開かれた参加しやすい体制づくりを望む。 ・体育協会に委託して実施を進めており、バドミントンや卓球、バレーボール、ソフトボールなど多岐にわたり、心身の健康、体力の増強と競技力の向上を目指して行われている。約22種類の競技があり、1,000人を越える参加者がある。健康増進のためにも継続が望ましいと考える。
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後 の方 針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 市民スポーツ大会については、体育協会の各専門部が自主的に大会を運営している。それを支えるために教育委員会事務局において、体育協会の事務局の役割を担っているが、同協会に対して市から補助金を交付していることから、今後は、事務局の役割を含め、完全自主運営ができるように促していくことが課題である。体育協会が完全自主運営ができるように環境を整えていきたい。	事業の総合評価 【 2 】
---------------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

事業名	〈宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業〉 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — 近畿高等学校自転車競技大会・ロードレースの部				所管課	生涯学習課
事業の概要	近畿高等学校総合体育大会の近畿大会として自転車競技大会(ロードレースの部)を宇陀市農林会館をスタートゴールとする周回コースにより大会を開催。					
目標・実績	高校総体自転車ロードレースを誘致することにより、市民の競技スポーツへの関心を高め全国レベルで活躍する地元高校の自転車競技部の活躍を通じて自転車競技のPRを行うとともに、スポーツツーリズムによる宇陀市への来訪者を増やすことは、市の活性化にもつながるものとする。 愛好家が増えてきた自転車を使った健康づくりや競技として、宇陀市内で積極的な活動ができるように施策として実施していく。					
教育自己評価委員会の	成果と課題					
	平成29年6月4日、宇陀市農林会館周辺特設コースにおいて、30校、131人の選手が参加し、観戦者約500人、競技役員・ボランティアは約200人の内容で熱戦が繰り広げられた。 競技の間、交通規制を実施するための周辺住民への周知、誘導員の配置などに課題が残った。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
評価理由	宇陀市において3回目の開催となり、ボランティアスタッフ、観戦者も多く参加いただき、成功に終わることができた。		評価理由		高校生が積極的に活動できる大会で、次代を担う青少年の育成に有効な事業である。	
	スポーツによる地域興しや、活性化を図ることや、高校生が日頃の修練を発揮する場として、今後も継続して実施していく。					

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検の 主なる 意見 から	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツツーリズムの展開で宇陀市に来訪者が増えることは喜ばしいことである。少なくとも10年間は実施することなので、周辺住民へ理解を得るための意義の周知などを徹底していただきたい。また、スピードを伴う競技であるので、事故が起らないよう、さらなる安全管理体制の構築に努めていただきたい。 ・市内にある榛生昇陽高校が自転車競技で実績を積み重ねており、高校総体自転車ロードレースを誘致することにより、市民の競技スポーツへの関心を高め自転車競技のPRを行うとともに、スポーツツーリズムによる宇陀市への来訪者を増やすことにより、市の活性化にもつながるものとして実施され、3回目となる。自転車を使った健康づくりやサイクリングの愛好者は徐々に増えてきたと考える。スポーツによる地域おこしや次代を担う青少年の育成につながる事業であり、継続していく事が望ましいと考える。 					
	点検評価支援員による総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	〈施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性〉 奈良県高等学校自転車競技連盟が主催する本事業の大会開催地として会場提供をはじめ、一部運営に協力し、また、積極的に市民に啓発を行い、自転車競技への理解と関心を深めることができるよう努めていきたい。					
	事業の総合評価 【 2 】					

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

	<宇陀市教育大綱に基づく主な施策・事業> 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり ・スポーツ等を通じた健康づくり「健幸都市ウェルネス」事業の推進 — ラジオ体操事業	所管課	生涯学習課			
事業の概要	ウェルネスシティ宇陀市を目指してラジオ体操の普及と健康増進を図るための啓発事業として夏休みラジオ体操会を開催。					
目標・実績	8月23日(水)の早朝に総合運動場を会場に夏休みラジオ体操会を開催。 約700人の参加者により、ラジオ体操第1第2を行った。					
教育自己評価委員会の	成果と課題 まちづくり協議会等が、市内30箇所以上で日ごろからラジオ体操を実施しているが、より一層ラジオ体操が市民の生活の一部となるように意識啓発を兼ねて、総合運動場を会場に夏休みラジオ体操を開催し、多数の参加者を得ることができた。					
	達成度	A	必要性	A	有効性	A
	評価理由	評価理由 平日の早朝ではあったが、約700人が集まってラジオ体操を行うことができた。		評価理由 体力づくり・健康づくりのため、体を動かすことの大切さを市民にPRすることが必要である。	評価理由 健幸都市ウェルネスシティ宇陀市実現のための啓発事業としては、有効と考える。	

※達成度・必要性・有効性は右記から選択してください。「A」高い、「B」やや高い、「C」やや低い、「D」低い

点検評価員の主な意見から	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進のために、一番身近で取り組みやすい体操として定着しているラジオ体操を、市民が一堂に会する機会を設けて実施することにより、さらなる健康増進への意識付けを図ることはそれなりに効果があると考えます。 まちづくり協議会等が地域ごとに働きかけて、早朝6時半ではなくテープによる自由な時間帯で実施していたり、事業所で始業時間にあわせて実施されていたりする現状があるので、小さな単位での実施促進を図ることも、健康増進には有効ではないだろうか。 健幸都市を目指してラジオ体操の普及と健康増進を図るための啓発事業として夏休みに開催している。まちづくり協議会や自治会などで日頃から体操は行われており、体力づくり・健康づくりにつながる事業で、健康増進課との連携も大切である。年1回の開催であるため、スポーツ推進委員や関係機関との調整、意見交換を行い、見直しも視野に考えることが望ましい。
	点検評価支援員による総合評価 【 4 】

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

今後の方針	<施策の課題や点検評価員の意見をふまえた方向性> <ul style="list-style-type: none"> 30箇所以上で日ごろからラジオ体操を実施している実績から、啓発事業としての夏休みラジオ体操会は、見直しを検討する。 ウェルネスシティ宇陀市を目指して、市民の健康づくりのため、健康増進課との連携の上、地域の要望に応じてスポーツ推進委員を派遣するなど、市内各地域でのラジオ体操の推進を継続できるよう促していく。 	事業の総合評価 【 4 】
-------	--	---------------

※総合評価 「1」拡充、「2」継続、「3」縮小、「4」抜本的な見直し、「5」終結

5 まとめ

宇陀市では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正を踏まえ、平成 29 年 3 月に「宇陀市教育大綱」を策定しました。

この大綱は、総合教育会議において、宇陀市の素晴らしい自然環境、地域の教育力、伝統文化を活かした教育について議論を重ね、その目指すべき教育をまとめたものです。

大綱では、4 つの基本目標及びこれを推進するための 5 つの基本方針を設定し、方針に沿った事業に日々取り組んでおります。

さて、平成 29 年度は教育大綱に沿った事業の 2 年目となりました。今年度も宇陀市教育委員会では、教育行政のさらなる充実を図るとともに、市民への説明責任を果たすことを目的として、ここに「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果に関する報告書」（平成 29 年度施策・実施事業分）をまとめました。平成 29 年度に執行した教育委員会の主な事務事業を宇陀市教育大綱に基づく基本方針の項目ごとに分類し、目標の達成状況・進捗状況について教育行政点検評価支援員の意見を踏まえながら点検・評価し、とりまとめた本報告書については、市議会に提出いたします。

宇陀市においては、子どもたちの学力・学習意欲の向上や家庭・地域の教育力の向上など宇陀市の将来を担う子どもたちに関する課題や、生涯学習を推進するための環境整備や伝統文化の推進・伝承等の地域社会に関する課題などに取り組んでいく必要があります。

今後の宇陀市教育委員会の方向性として、宇陀市教育大綱にある『子どもたちの「生きる力」と「夢」を育むために、自己の可能性を追求し、住みよい地域社会の一員としての役割を果たし、お互いを尊重しあえる豊かな人間性を育む』事業の展開に引き続きまい進してまいります。

【参考】

4 つの基本目標

- ・ 確かな学力・豊かな人間性・健やかな心身」を基本に、自己実現のために真摯に研鑽する教育をめざします。
- ・ 誰もが楽しく学べるために、教育環境の中長期的な展望を描きつつ、社会全体で子育てや家庭の教育力を高めることをめざします。
- ・ 社会の一員として義務と責任を果たし、自他の尊厳を尊重し、地域社会の発展に寄与する人間づくりをめざします。
- ・ 郷土の歴史や伝統文化に親しみ、地域産業の振興を通して、持続可能な社会づくりのための人材育成をめざします。

5 つの基本方針

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 確かな学力・規範意識・体力の向上 | 2 夢を育む教育環境づくり |
| 3 地域全体で子育てを | 4 人権文化の創造 |
| 5 郷土を誇り郷土を愛する人材づくり | |